九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学新聞

https://hdl.handle.net/2324/1520617

出版情報：九州大学新聞. 432, 1959-06-25. 九州大学新聞部
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大學新聞
発行所
福岡市箱崎町
九州大学新聞部
電話③435内883
振替福岡13103
定価一部10円
年300円・半年150円
発行人　柴田　順作

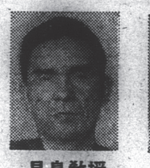
創刊三十二周年記念号

六学部長改選さる

新しく秋吉（工）副田（経）教授

教養学部は田中教授再選

五学部（法、文、経、教育、工）学部長の任期満了にともなう改選が行われ、法学部具島兼三郎教授、教育学部駒田錦一教授、工学部秋吉三郎教授、文学部目加田誠教授、経済学部副田満輝教授がそれぞれ選ばれた。なお教養部長には田中定経済学部教授が選ばれた。

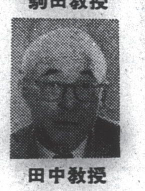

具島教授

秋吉教授

副田教授

駒田教授

目加田教授


田中教授

駒田錦一教授　前期に引き続き教育学部長に選ばれた。昭和四年に東大文学部哲学科を卒業し、二十九年九大教授となった。その間熊本薬専教授、岡山医大学生主事国立教育研究所などを務め、二十五年には人事交流計画によって米国へ留学。比較的新しい教育学部だが教授もそろったし、これから学生数を増して学部の発展をはかると共に、全国で九大だけにある比較教育文化研究所の充実をはかって行きたいと語った。社会教育学担当、五十二才。

田中定教授　教養部長は前期に続いて二度目。九大法文学部経済学科を卒業し昭和十年に同教授となった。二十六、二十八年と二期経済学部長を務め、その間、農産物価格研究のため米国へ出張。三十二年に教養学部長となった。「九大学生生活四年間の中一年半をたのしく暮すために努力して行きたい」と語った。専攻は農業政策。五十六才。

具島兼三郎教授　法学部長は卅年に次いで二度目。新設の九大法文学部第一回生として政治学を専攻した。九大助手から同志社大学助教授、満鉄調査部を経て終戦となり、この間、独房につながれたりして苦労した。戦後読売新聞論説委員として活躍。二十三年に九大に帰った。以後十一年間政治学の講義と共に多くの講演、著作等で広く学生の間に親しまれている。抱負として「教授の欠員を補うと共に現代日本の平和とそれに伴う学園自治のために皆んなの意見をまとめて一致してやって行きたい」と語った。法学博士、五十四才。

副田満輝教授　九大法文学部経済学科を卒業、副手等をして、現在の経団連や日満財政経済研究所等の研究所などを務めた。廿三年に九大産業労働研究所に帰った。その間二度応召にあい南方でインパール作戦等生死の間をさまよったこともあった。二十九年経済学部に移り三十一年に教授となった。経済学の労務管理が専門。経営学の講義を増し、整備するとともに五十周年記念の事務等しっかりやって行きたい。幸い経済学部はしっくり行っているし、公式非公式に皆んなと話し合ってやって行きたいと歯切よい言葉が飛び出す。四十九才。

秋吉三郎教授　工学部長は今度初めて。大正十二年に九大工学部応用化学科を卒業し大阪工業試験所合成化学部に勤務し、昭和二十年に九大工学部教授となった。三十二年から合成化学第三講座を担当。工学博士。専門は高分子化学で、合成化学研究は三十六年にもなるこの道の草分けである。「日本の大学が外国の真似ばかりではいけない。もっとクリエーションをしなければ。若い人達がそう出来る態勢を作ってやるのが私達の務めです。これからの人達は世界に誇りうることをします」と語る。その面影は言葉の中に躍如としている。六十一才。

目加田誠教授　前期に引き続いて文学部長に選ばれた。東京外国語大学支那語科及び東大文学部支那語科を卒業した。昭和八年中国文学研究のため二年間中国に留学。再選された時の気持は今まで走って来たグランドをもう一周せよといわれたようなものと語る。しかし幸いに教授陣もそろって来たのでもう一度頑張るつもりだと語った。文学博士で詩経に造詣が深い。五十五才。

九大人事

▽着任　隈本正司（鳥取大医学部講師）医学部助手に▽林哲郎（鳥取大助教授）助教授に▽井野正人（九工大助教授）助教授に▽野村孝文（鹿児島大工学部教授）工学部教授に

▽昇任　多山博（付属病院助手）同講師に▽石井敬武（付属病院助手）同講師に▽林勝哉（農学部助手）同助教授に▽須永照康（工学部助手）同助教授に▽江原淳（農学部助教授）同教授に

▽復職　弓削三男（講師）

▽外国出張　下鶴大輔（理学部助教授）コンゴーへ▽徳山一郎（付属病院講師）アメリカへ▽渡辺英一（付属病院講師）アメリカへ。

経済学部　自治会再建成る

25日に学生大会

経済学部自治会執行委員（定員九名）は六月二十二日信任投票の結果信任された。これはさきに承認された自治会規約にもとづいて行われたもので、これにより念願の経済学部自治会は事実上再建された。代議員総会が開かれ二十五日に予定されている学生大会に提出される今後の方針案が決定されるが、代議員会は十二の各ゼミナールから選出される十八名によって構成される。活動方針案の中心をなすものとみられる安保条約改定についてはその本質を検討するためすでに経済研究会の中に日本資本主義研究会を設け、財政、独占資本、労働問題等九つの部門に分れて安保問題の分析がなされ毎週火曜にその発表会がもたれている。その他執行委員会で検討されている方針案の大綱としては、学割制限、厚生問題等の経済生活の擁護問題、熊本大、大分大に起った自治権擁護の問題、就職あっせん機関の設置、教授数の増加およびゼミの強化などがとりあげられている。代議員総会でこれらの方針案が決定された後、学生大会で正式に承認を受けることになっている。

ブランデン氏

本學で講演

来日中のイギリスの詩人・評論家エドマンド・ブランデン氏は、二十日午後一時半から約一時間半工学部講堂で「現代について」という演題で講演をおこなった。

ブランデン氏は「もし私に現代（二十世紀）について語る資格があるとすれば、それは、私が今世紀より年をとっているということだけだ」といったユーモアをまじえながら、文学、とくに詩からみた二十世紀について語り、会場に集った約五百名の人々は熱心に耳を傾けていた。なお、講演会の後、若い学生の人人と話したい、というブランデン氏の希望で、文学部会議室で同氏をかこむ懇談会がおこなわれた。

なごやかな懇談会

経済学部

教授と学生を親密に

教授と学生の間をもっと親密なものにして意思の疎通をはかろう―こういう趣旨でいま自治会作りにいそがしい経済学部自治会再建委員会が主催して六月十日法文経ビル小会議室で経済学部の教授と学生の懇談会がもたれた。集ったのは馬場学部長以下十名の教授、助教授と二十名余りの学生、ゼミナールのことから講義の注文、さては事務窓口のサービスに対する苦情に至るまでさまざまのことが話題に上った。

話はまずゼミナールのことから始まった。「ゼミの性格がぼやけている」経済研の松本君はこういってつぎのように現状を説明した。現任十のゼミがあっておよそ二百名余りの学生がこれに参加している。ところで何といっても一番の悩みは学生の数が多すぎるということで、例えば高橋教授のゼミでは百名近くが参加しているように、実質的には教室の講義と大差ないものになっている。これではゼミに対する期待外れもはなはだしいということになる。事実再建委員会でまとめたアンケートの結果もゼミに対する不満で「人員が多すぎる」というのが圧倒的だったように不満はこれにつきるといって良いようだ。栗村教授が「私のゼミは先着順三十名に制限している」といっているように各教授も論文提出を参加資格にしたりして人員を制限している。だがゼミが必修となっている以上、学部全体としてこういうことでは根本的な解決にはならない。そこで「産労研や教養部の経済学担当の教授にもゼミを担当してもらえないだろうか」という要望が学生側からあったが馬場教授はこれに対して「ゼミは講義と切り離して考えられないので実現はむずかしいだろう」といいながらも教授会にかけて検討することを約束してくれた田中教授のゼミで最近のこと、学生が報告を終ったので、別の学生にそのレポーターの名前を知っているかと聞いたら「知りません」と答えたというと「これは早急に何とかしなければなりません、全く驚きましたよ」と田中教授が真剣にいうように「教授が少い」ということですまされない、早くなんとかしなければならない」問題である。ゼミナールにはもう一つ「持上り式」というのがある。一橋大などで行われているもので、学部進学時から卒業時まで一つのゼミに一貫しているやり方である教授と親密になるという点では理想的だが「ゼミの教授が就職の世話までするようになって学問以外の要素が入って来る」（馬場教授）という弊害もあるように現状をどう改革するかということは仲々むずかしい問題である。講義に対する要望もいろいろ出た。とりわけ「講座数が少い」という声が多かったがその他にも「時間割が水曜日に集中している」「近経の講座を増やしてほしい」「集中講義を増やして色々な人の講義を聞きたい」等々。しかし「講義に熱を入れてやっていても反応がないと気合抜けがする」（高木暢哉教授）というように学生の受身の態度が教授の方から批判されたが同様、田中教授も「試験の答案をみるのが退屈だ。ツブは揃っているが皆一様な講義の縮小再生産でしかない」と学生の痛いところをついていた。その他図書購入のことや、教養課程のことなど、あれやこれやと話が出るうちに予定の二時間がたって、なごやかなうちに会を終った。今後は一学期に一回位は懇談会を持とうということになった。

自治会　再建強化を確認

第十一回代議員總會開く

中執委委員長　和田敏之君（法三）

第十一回代議員総会は六月二十日午後一時から工学部九番教室で約八十名の代議員が出席して行われたまず中央執行委員会、厚生総部等からそれぞれ活動総括報告、活動方針案、予算案が提出されひきつづいて討議が行われ、自治会の再建強化、学友会厚生総部の生活協同組合化、安保改定に反対して闘うこと等を決議した。その後文化サークル加入問題、行動方針案を検討、最後に役員改選があり委員長に和田敏之君（法3）以下中央執行委員九名が選出された。

和田委員長

まず中執委の高島書記長から中執委の活動を中心に活動の総括が行われた。その中で、昨年度自治会活動の再建強化をはかるためにとられた中委制度の活動と反省、安保条約に関する研究会、安保闘争委員会の評価、九大祭の経過報告と評価を行った。中でも今年の九大祭実行委員会が単に「お祭り行事としてでなく「平和と民主主義と学問の自由を守るため」という学友会活動の一環としての明確な基本方針を提出し、終始それに貫かれていたという点を高く評価した。そのあと討論に入り八、九回大会で確認され決議された医、経、工等の自治会再建問題あるいは既成の単位自治会の強化への努力が中執委に認められないという強い批判がでて注目された。それに対し中執委は学生の関心から客観的条件を克服する強い自治意識の盛上りと協力が必要であるが、今後なお中執委として努力すると述べた。

厚生問題については、最大の課題である学友会厚生総部を生活協同組合に切換えることであるが、収支がやっと赤字を防いでいるといった現状では生協に踏み切った場合課税、学校側の援助（家屋、光熱費、人件費等）が打切られること等困難な面もある。しかし学生の利益を守るためにも重要だから生協切換え要求の運動を各単位自治会と協力し強く盛りあげていきそれと共に経営の健全と安定化のために主力をそそぐということが決議された。また教養部自治会の厚生問題に関する具体的活動が学友会厚生総部の存在がセクト的であるところから弱められるように思われるという意見が出されたそれに対し厚生総部は週一回教養部自治会との懇談会を持つことで解決に努力しようということが決議された。つづいて学窓会、アルバイト委員会が活動報告を行った。つぎに活動方針が提案されたが、とくに現在直面している安保改定の問題に対して、階級的観点に立った平和、民主主義ための闘いとして学生の認識を深め、情宣活動を活発に行ない、反対運動を展開する事になった。

その他九大海の家、学生会館設立要求、夏期休暇の帰郷活動の発展あるいは各単位、自治会、学友会等の組織を強化することが採決された。

なお新しく文化サークルの九大キリスト教青年会、セッツルメント法律相談部、吟詠部、体育サークルの弓道部が新しく学友会に加入することが承認された。

最後に役員改選が行われ、新しく委員長に和田敏之君（法3）を選出し、次の八名の中央執行委員及び書記局事務長を選出した。

副委員長、東富士男（法3）同石橋英治（経3）書記長、樺島義幸（法3）中執委員、安元和美（教養1）秋田望（農3）藤本英雄（教3）久保和子（文3）川本光治（理3）書記局事務長原田和夜（教養2）

私の歩いた道（3）

經濟學を志す前

向坂逸郎

私は大正七年に熊本の第五高等学校を出て、東大の法科大学経済学科にはいった。その頃は、高等学校と大学の卒業期は六月で、入学期は九月であった。どういうわけか知らないが、大学の経済学科にはいる者は、高等学校で英語を主としてやる文科甲類を出たものに限られていた。あるいは、経済学とはイギリス古典派経済学であるという明治初年の思想の継続であったかもしれない。ある意味では正しい考えだが。私は、文科丙類（ドイツ語を主としてやるクラス）にいたので、二年生頃から経済学をやりたく思っていたが、経済学科にはいるには英語で試験を受けなければならなかった。ところが、私が三年生になった時から、ドイツ語でも経済学科の受験ができることになった。しかし、田舎の高等学校では、この規則の変更のことがよくわからず、一応法律学科で試験を受けて、経済学科に転科する手続をしたらよかろうといわれて、そのとおりにした。試験問題は多分トマス・ホブスの「カムプフ・ウムス・レヒト」（権利のための闘争）から出たのかと思うが「すべての人のすべての人に対する闘い」という文句があったことを覚えている。試験科目は独文和訳と和文独訳と一題ずつであったように思う。

六月合格の決定から、九月十一日の入学までは、うれしいのんびりした気持ですごした。就職などということは考えてもみなかった。六月入学試験の発表で及第していることがわかって帰郷する時、山崎覚次郎、河津暹等の東大教授の経済原論その他経済学関係の本を幾冊か買ってきて、六月から九月までに読み終えた。少しがっかりした。というのは、私が河上肇さんの「貧乏物語」を読んで考えていた経済学なるものと、これらの本に書いてあることとはちがっていると感じたからである。しかし、熱心に読んだ。私はまだ社会主義の本を読んだことはなかった。九月上京して、これからの先生の講義をきいた。「青草の野で枯草を」のみ食っているような講義であった。本郷森川町に下宿して経済書を手当り次第読んだ。この頃は長谷川如是閑、吉野作造、福田徳三諸氏の講演をよくきいた。多分黎明会ができて、有名な学者思想家の講演会が方々で催された時だろう。姉崎嘲風、生田長江麻生久等の人々の話をきいたのもこのころである。三宅雪嶺、海老名弾正等の諸氏の演説もきいた。文学書も人なみに読んだ。どういうつもりだったか思い出せないが、俳句雑誌「ほととぎす」の旧号を古本屋でさがして読んだ。正岡子規の随筆を楽しんだ。子規の「歌よみに与ふる書」の痛烈な論戦的態度が、面白かった。これは印象深い文章であった。高等学校時代に、高木市之助さんに「国文学史」をおそわり、先生のお宅に遊びに行っては、俳句の話をきいて、いつの間にかその方面のことが面白くなって、読みつづけていたのである。高木市之助さんには、国文学、ことに和歌や俳句の面白さを教えていただいた。余ほど文学的才能がないのか、自分では何もつくれない。

☆

☆

全学連14回大会開く

〝階級闘争〟を再確認

全学連第十四回定期全国大会は六月五日から八日までの四日間、東京品川公会堂、芝公会堂で全国各地から集った代議員、評議員八百名、傍聴者八百名の参加の下に開かれた。大会は第二日から報告、討論に入り、北海道、東京、兵庫九州等十二地区の活動報告があり中執が全学連の活動を報告した。これに対し、中執案に反対する早大、神戸大、立命大の有志から修正案が出された。双方は勤評、警職法闘争の評価で対立し、烈しい討論の後修正案は投票総数三七二票のうち、賛成一三八票で敗れ、中執案が賛成二一七票で採決された。この後、全金山薬倉庫、国鉄志免、主婦と生活社、メトロ交通の各労組が全学連からの支援を感謝するあいさつがあり、大会参加者は資金カンパを行った。

情勢分析は塩川委員長の提案説明後、すぐさま反対派からの修正案が出され、主流派、反主流派ほぼ同数の発言者が労働者階級の圧迫と平和勢力をめぐって猛烈な論戦を展開した。採決では修正案は一三五票、中執案二二一票で昨年通り、運動推進の理論的根拠を「階級的立場に立つ」方針を再確認した。

以上二度にわたる投票で約十六票が明確な態度を示さず、学生運動が行動を伴うことに、無言で反対の意を表しているのが注目をあびた。

次いで活動方針にうつり、中執提案の行動方針に対して、早大、神戸大など反主流派はこれにたいする、明確な対立方針を持たず、そのため、東大教養部代議員からの修正案が対立案として出たにすぎなかった。反主流派は六月二十五日の安保改定反対闘争でスト等の行動形態をとることに反対したが対立案を出さなかったため迫力がなかった。採決の結果多数の支持を得て、中執提案の活動方針が採決された。

新役員には委員長唐牛（かろうじ）健太郎君（北大・教養）副委員長加藤昇君（早大・二部）同糠谷秀利君（東大・法）書記長清水丈夫君（東大・経）をはじめ中央執行委員に篠原浩一郎君（九大・教養）など二十六名が決定した。

大会終了に当って次のスローガンを含めた十四項目のスローガンを採択した。

一、日本は帝国主義の抑圧と侵略の政策安保改定反対。
一、合理化に反対する労働者の闘争を支持しよう。
一、大学における軍事研究反対、大学の自治、学問の自由を守れ。
一、反帝平和の旗の下、全日本の学生は全学連に結集せよ。
一、全日本の学生は六・二五に決起せよ。

全学連の方針を支持

委員長に大藪君（九大）

九学連大会

大藪君

九学連第十六回定期大会は六月十三日から十五日までの三日間長崎労働会館、国際文化会館で九州各大学から集った代議員、評議員約百名の参加のもとに開かれた。

大会は最初に九学連執行委員会の一年間の活動報告があり続いて各大学の自治会活動報告が続いた。次いでこれらの総括に対して討論がかわされたが、全学連十三回大会以後の階級路線に基づく学生運動が問題になった。結局この中執の総括案がほぼ全面的に認められた。

その後内外情勢の分析にうつり、今後の学生運動を推進させていくために階級的観点に立って労働者と提携して、平和を守るために闘うことを確認した。中執提案の活動方針をもとに次のスローガンを含めた十三のスローガンが採択された。

一、日本帝国主義の侵略と抑圧の政策、安保条約の改定を阻止せよ
一、日本軍隊の核武装反対、憲法改悪反対、第二次防衛計画を許すな大学道兵科設置反対
一、教育制度改悪反対、教育者になる学生の完全就職を実施せよ
一、大学の自治、学園の自由を守れ
一、国鉄志免の払下げ合理化に反対しよう
一、厚生施設の生協化を促進させよう。学生会館、寮建設を促進しよう
一、六・二五ストライキを目指して闘おう

最後に役員改選が行われ、次の諸氏が新役員に選出された。

委員長大藪龍介（九大）、副委員長原野利彦（九大）、篠原浩一郎、書記局梶武寛（九大）、庄島厚生（西南大）、中執井嶋弘子（福安大）、伊藤照明（西南大）、二宮章一（九大）、神正夫（九大）、加治原 健治（佐大）、須藤 昌徳（佐大）河野健治（大分大）、野中昭生（長大）、中山明之（福学大）、大村幸三（福学大）、東園久治（福学大）、菊池 嘉継（宮大）、松岡照覧（熊大）、原田道子（熊女大）

田島寮祭盛大に

六月二十、二十一日

恒例の教養部田島寮祭りが六月二十、二十一日の両日行われた。二十日にはみこし行列、フォークダンス、綱引き、マラソンに続いて、ファイア・ストームに若者の血を燃やした。二十一日には女子大、教養部女子、九大医学部看護学校の合唱等を含めて、寮生の演劇や早飲み早食い競争と多催な行事が行われた。最後にダンス・パーティが行われた。なお当日はバザーもあり、にぎわった。また寮の各部屋には寮祭特有の寮デコが飾られて寮生の生活等をが興味を引いていた。中でも興味を引いたものをあげると二十日、オンチコーラス、オンボロ合奏、早飲み早食い競争、お国自慢、飛び入り即興詩人東西ラブシーン・コンテスト（ロミオとジュリエット、業平と小町、シーザとクレオパトラ、イザナギノミコトとイザナミノミコト）等。

大学院の入試十月に

経済学部で繰り上る

経済学部では、大学院への進学試験を例年三月下旬に行っていたが三十五年度より十月下旬に行うことを決めた。これは事務的には特別の理由はないが、学生の将来のことを考え、学生が就職するか、大学院へ進学するかを早期に決められるようにするためである。なお詳細は七月の研究会で決定される。その他の学部の動きとしては法、文、教、理の各学部は三月下旬、農学部では博士課程は三月修士課程は十月から十一月にかけての従来通り。工学部は昨年は十月に行なわれたが来年度の日時は決定していない。

夏期インカレ　福岡で開催

7月11日から6日間

本校が当番校

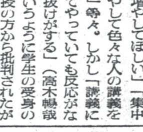
第九回九州地区六大学体育大会は、当番校本学の運営のもとに、七月十一日平和台競技場での入場式から十六日までの六日間、福岡市内十六会場で行われる。大会には九州各地から九大の二八〇名をはじめ、三、四〇〇名（女子七〇〇名）が集り、陸上競技、水上競技、野球、準硬式野球、庭球、軟式庭球、排球、卓球、バドミントン、体操、グライダー、剣道、拳闘、弓道の十四種、六十六種目にわたって熱戦がひろげられる。

競技は総合得点主義ではなく、各種目の優勝を争われ、三位までが入賞する。

競技の組合せは七月十一日午前十時の主将会議で最終的に決定される。

競技日程はつぎの通り。

陸上競技＝十二日、平和台競技場▽水上競技＝十二日、工学部プール▽野球＝十一―十四日、平和台、九大▽準硬式野球＝十二―十五日、香椎、九大▽庭球＝十四―十六日、工学部コート▽軟式庭球＝十二日、教養部コート▽排球＝十二、十三日、東公園▽卓球＝十二日、教養部体育館▽バドミントン＝十二、十三日、久留米大学▽体操競技＝十二、十三日、福岡学芸大学体育館（塩原）▽剣道＝十二日福岡県警道場▽拳闘＝十二、十三日石橋文化センター（久留米）▽弓道＝十二、十三日、東公園▽グライダー＝九月五、六日、小倉



「チョッとお待ち下さい、いま飛行機が飛んでいますから」学外から九大に電話をかけた人なら、大抵これで話の腰を折られた経験をお持ちだろう。やがてすさまじい爆音が受話器を通して聞える。この間十数秒。近頃はそれが特にひどい。気分のせいだろうか。通話中幾度となくこれをやられると、いい加減うんざりして来て、「くわしいことは、直接会った上で…」ということになる。腹が立つ▼そこで、音響測定器をかついで学内を回ったら、いたるところで一〇〇フォーンと出た。東中洲のけん騒よりひどい。講義中こいつが頭の上をかすめると、教授も学生も、皆一様にムッツリと不機嫌になってしまう。不機嫌ならまだしも理学部ではある種の精密を要する実験が不可能になってしまうという▼何とかしなければ誰もがひとしくこう思う。だが、どうしたことか、表面立った抵抗は一昨年のF一〇〇型ジェット機持込反対運動を最後にピタリと止んでしまった。その後、啼かず飛ばずである。その間も、相手はしきりに飛んでいる▼懸命になって防音設備の予算を獲得したところで、基地がある限り、ことの解決にはならない。そして、それは目下論議中の安保条約の廃棄あるのみだ―こんなことは、みな百も承知している。にもかかわらず、溜息に似た、被害者意識がつつましく存在するだけである▼自治会再建には「消極的に協力」し、全学連の方針には「一部賛成、一部反対」で、デモや集会には「ときたま参加する」というのが圧倒的な多数を占める九大生の〝意識〟である。これをみると、爆音に対しても時には「板付基地撤廃」のデモがあり、消極的ながら溜息以上の抵抗がなされている筈だが…▼…。一見、尋常と思える三つの反応を更に分析して行くとどんなことになるだろう。もしも現実とはうらはらな天下泰平のムードが「一部賛成、一部反対」という言葉に格好の表現を得ているのなら、大変気になることである。

自然　7月号　100円
変質者の再検討・加藤正明　凶悪犯罪と結びつける安易な扱いに警告する
実験と核物理学・山口省太郎
地殻の底を覗く・パスコム
雨の物理・伊東彊自
労働災害・田中恒男
学術会議討論速記＝原子力基本法をまもれ　学術会議への忠言にこたえる・小椋広勝
光合成のからくり　緑葉の神秘にいどむ現代科学・高松健
遺伝とはなにか　微生物遺伝学が示すその実体・斎藤日向
東京中央区京橋2の1　振替番号東京34　中央公論社

谷口知平・加藤一郎編
民法演習〈問題と解説〉
全5巻完結
講義・演習等において扱うケース研究を民法全編にわたって総合的に行う。各問題の冒頭に論点を掲げ、学説・判例を豊富に引用して学習者の体系的知識に応用的肉付けを加えた、民法学習の総仕上げ
I 総則　II 物権　III 債権総論　IV 債権各論
A5判・美装　各巻二三〇円
V 親族・相続　[illegible]
東京神田神保町　有斐閣　振替東京三七〇番

白水社のフランス語学書
朝倉フランス基本単語集　東大助教授 朝倉季雄著　B小型200頁 ￥250 〒24
これだけ憶えると中級の教科書に現われる単語の90%を身につけたことになる。科学的な調査を基礎にした画期的な単語の研究書です
フランス語の入門　早大教授 数江讓治著　B6判220頁 ￥360 〒32
文法の大筋を図表化して解説。いちいち例文と解を示し、重要学説は要約してノートした初歩学習書、学校の講義のように親切な解説
基礎フランス語文法　中原俊夫著　B6判上製272頁クロス装　￥380 〒40
大村初級フランス語　大村雄治著　A5判ビニカブ装　￥380 〒32
田島フランス語講座　全8巻　田島清編　A5判フランス装各￥150 〒24
仏蘭西語動詞変化の栞　田島清編　B小型　146頁 ￥100 〒16
英語より仏語へ　徳尾俊彦著　合判 ￥350 〒40
目録呈　東京神田小川町3・振替東京33228

合同出版社　東京千代田神保町1―52　振替東京65422
哲学教程　ソ連邦科学院哲学研究所著　森宏一・寺沢恒信訳　全四分冊　各一八〇円
自然科学の進歩を踏まえ社会科学の最近成果を総括し、現代の世界観を確立するための画期的な哲学テキスト！
経済学教科書　第三版　ソ連邦科学院経済学研究所著　経済学教科書刊行会訳　全四分冊　各一八〇円
個人崇拝による歪みから解放された理論の発展を基礎に改訂版ここに刊行！
教科書・ゼミナー研究会のテキストに多くのサークル、学校に採用されております。
日本共産党宣伝教育部編　ソ連邦共産党第21回大会　全五分冊 各180円
M・ドッブ著 玉井龍象訳　資本主義昨日と今日　120円
デンケヴィチ著 小野義彦訳　戦後日本の経済　予390円
井上清・鈴木正四著　日本近代史　上120円 下150円

石川達三と対決　野依秀市著　新刊　B六判二百頁　価二百円〒40
石川達三の「時計」「随筆」に一々批判を下した現代随一の快著。著者は三宅雪嶺、幸田露伴、小泉信三、武者小路実篤、尾崎士郎の絶対的支持を受けている
特別奉仕　「石川達三と対決」をお買上げの千名に限り「正義の抵抗」を進呈します。
野依秀市全集　第一巻　日本と皇室　五十年間の時代の推移を集中に見るが如し。皇室関係の論文百七十篇を収む。半世紀の政治社会史　大版　価七〇〇円〒四〇
野依秀市著　正義の抵抗　B六版　価四百円〒四〇
やさしい信仰の手引き　新書　価90円〒16
世渡りの手引き　新書　価90円〒16
東京都港区芝公園5　振替東京8433　実業之世界社

江戸時代漫筆　B6判295頁　300円〒24　井上書房
―週刊朝日絶讃！―　再版出来！
東京大学教授　石井良助著
著者専門の法制史研究の余録で警察国家であった江戸の法制についての随想歴史・大衆小説を書く人に役だち、一般にも的確な知識を与え、面白く読ませる
待望の正続両編完結　日本産業入門　山田亮三著　正編4版！続編3版！
正続併せて18産業を収める就職前必読の好著。殊に続編の銀行・証券・貿易業が面白い。新書各 160円〒24
◆法律の眼　明大教授 和田英夫編　サンデー毎日評……血のかよった六法全書。280円〒32
◆国家試験案内　160円〒32　34年版70種の試験を案内。
◆プライスの近代民主政治　宮本吉夫著　A5判390円〒50
東京都世田谷区赤堤2の406　振替東京78146

発売！
一九六〇年版　経済新語辞典
日本経済新聞社編　B6判 三九〇頁　定価二八〇円（〒30）
就職試験はもうすぐです……夏休中にこの辞典をマスターして、完璧の準備態勢をととのえましょう
収録語数二千九百余！
〈内容見本進呈〉
この辞典は、経済語を中心に、政治、外交、文化、社会などの時事用語を、もれなく解説しました。なお巻末付録に、各種の経済指標などがあります。
日本経済新聞社　東京日本橋　振替東京555

論説　教養部のストについて

（一）

安保条約改定反対統一行動デーの六月廿五日、教養部の学友諸君はストライキをもって立ち上った。昭和廿六年単独講和反対闘争でストを行って以来実に八年ぶりのことである。思えばこの八年という年月は、わが国においては、保守政権の下にあってサンフランシスコ路線に沿ったまっしぐらな道であった。それは「自主独立」という、はかない幻想の崩壊過程でもあった。ともかく、われわれは今、その八年前の産物である安保条約に、当時の先輩が闘った同じ姿勢で対処したのである。安保条約改定の意図については、すでに本欄で論究を試みて来たがその認識が未だ国民の各階層に浸透していないことおよび警職法の際とは異りマスコミの態度がかえって安保問題の本質を国民の眼からそらす方向に機能していること、などにみられるように、阻止の運動が現在おかれている条件は楽観を許さないものがあるといえよう。こうした中にあって、われわれ学生は何をなすべきかという問題は、国民統一戦線の中における学生運動の位置づけという形で提起されるべきであり、かかる観点に立つならば、現在、安保改定阻止運動がおかれている状況は学生の立ち上りを要求しているのであり、それは単に内にあって戦線を支えることにとどまらず、その先頭に立って、いわば尖兵として闘うことを要求しているのである。もちろん学生はその戦線の中から浮き上ってはならない。しかし、かかる「浮き上り」という現象は、とりもなおさず、学生運動の指導者の一般学生層からのハネ上りによる尖鋭化を意味するものであり、それは学生運動が内にはらむ問題に外ならないのである。

（二）

われわれは必ずしもストライキという形態そのものに眼をみはるものではない。ストライキはこれまでいく度か提案されてはそのたびにさりげなく否決されて来た。ストという闘争形態があまりにも安易に提出されてはならない。講義をボイコットする苦痛をもっと真剣に考えるべきだ―われわれは常々こう主張して来た。もちろんそれは「学生のストは無意味である」というドグマに対する対決をも含んでいたのだが、一般学生の意識の盛り上りのないストは厳につつしむべきだということは強く主張してやまなかったことである。しかし、今回の教養部におけるストが医学部講堂を満員にうめた学生大会という場で十分真剣な論議をつくして決定されたこと、およびそこに行きつくまでには二カ月間にわたるクラス討議や学内集会で意見の交換がなされたということは、これまでの懸念を一掃し十分高く評価してあまりあることといえよう。民主主義のルールは完全に守られた。このことは何よりもスト当日の教養部構内の平静さが物語っている。力と力とが押しあうピケはどこにもみられなかった。納得のゆかない一部の学生に対しては忍耐強い説得がなされた。九時からの学内抗議集会にもおよそ千五百人の学生が参加した。八年前のスト当日の混乱を知るものにはこの日の平静がむしろ異様にさえみえたという。ともかく混乱がなかったことはうれしい。だが一つ気になることがある。それは当日講義のある教官に対して事前にスト決議の旨を知らせて協力を求めなかったことである。なるほど、補導委員会を通して教官と話合ったことだろう。しかし、それが決裂したからといって、こうした努力が省かれてよいことにはならない。はじめから形式的にでも教官を「敵」にまわすことはよくない。

（三）

ストライキを敢行すれば当然つぎに予想されるものは責任者の処分問題である。このことはストへの盛り上りを感知して二十四日公示された教養部長声明や当日の新聞にのった山田学長の談話によっても明らかである。九大におけるストの歴史を顧みてもこのことはいえる。とりわけ補導教授設置の意向にみられるように文部省の学生運動への有形、無形の圧力は大学当局を通じてこの処分問題にも及ぶことだろう。これに対して今のところ警固公園での市内大学抗議集会で「弾圧には断固として闘う」という緊急決議がなされた程度でこれに対してどう対処し闘うかは明らかでない。学生大会でもスト責任者の処分については意見が出されたものの討議が深められないままにストが決議された。もとよりスト責任者に対するいかなる処分も不当である。論議をつくし、民主々義のルールをふまえて学生大会という場で採択されたことに対してはいかなる指導者に対しても〃暴動〃のらく印を押すことは出来ない。それにもかかわらず、処分が行われるならばわれわれはこれを撤回すべく闘う義務がある。これは戦術の問題である前に倫理の問題だ。八年前のストでも処分者が出た。大むね処分者のその後たどる道は、あまりにもけわしいものがある。教養部では昨年の警職法闘争以来、常に学生の意識に密着した行動がなされて来た。苦しかったがそれは未来を信ずる者のみが持つ明るい面があった。いま、かりにもわれわれが学友の処分を歎ってみすごすなら、教養部における学生運動はこれにひきかえ悲壮観にみちたもっぱら指導者の精神主義的なものに支えられたものになり、これが一般学生からハネ上りやがては尖鋭化するであろうことは自明の理である。このたびのストを支持したものも、終始批判的であった者も、この点については等しく真剣に考えてみる必要がある。そして、かりにもスト処分が発表されたなら、それに対して根強く闘うべきだ。そのさい〃混乱〃を憂うる素朴な常識論をふり回すことはやめよう。

◇ ◆

学生運動をどう見る

編集部の調査から

政治活動の意義を認める86%

自治会必要は69%

学生運動は「原子戦争準備反対」や昨秋の「警職法改正反対」をはじめ、最近では「安保条約破棄」の運動と、日本の平和運動の中核として常に根強く押し進められて来た。しかし、この学生運動に対しての批判が学生の中から、そして外からしだいに高まっている。九大の学生自身は、この事に関してどう考えているか、九大新聞では、六月上旬、広く意見調査をしてみた。

【註】調査方法　九大各学部の定員数に応じ、無作為に抽出した二百五十名に調査用紙を配布し、二百一名の回答者を得た。回収率八〇・四%。

学生運動について、どのような意見を持っているかを知るに、まず今日の社会において「学生の政治活動は意義があると思う」かどうかを質問してみた。意義が「あると思う」という答えが八二・二%に達した。

◇今日の社会において学生の政治活動は意義があると思いますか、思いませんか。

あると思う	八二・二%
ないと思う	八・六%
わからない	九・二%

次ぎに全学連（全日本学生自治会総連合）の存在を知っているかどうかの質問には、九五・四%という圧倒的多数が知っており、前回（33年2月15日）の調査結果九六・七%と共に、全学連の存在を知っている事は今や常識となっている事を示していた。さらに「知っている」者だけについて次の問に答えてもらった。

◇あなたは全学連の活動方針を知っていますか。

知っている	二三・九%
少し知っている	五三・七%
知らない	二三・四%

さらに「知っている」「少し知っている」ものだけについて、質問を重ねた。

◇その方針をどう思いますか。

全面的に賛成	四・五%
一部賛成、一部反対	七五・四%
全く反対	九・八%
分らない	六・二%
答えない	四・一%

これを前回の結果「全面的賛成」一四・八%、「一部賛成・一部反対」七四・四%、「全く反対」一・八%、と比べてみると「一部賛成、一部反対」にほとんど変化がないが「全面的賛成」が約一〇%減少し「全く反対」が八%増加している。

今回の調査が全学連第十四回大会以前に行われたため、十四回大会の運動方針についての反響を知ることは出来なかったが、十二回、十三回大会以後の学生運動の「転換」に対する批判が現れているようである。

◇現在の学生運動中、政治活動について次のような意見がありますが、どう思いますか。

極左的すぎると思う	四五・六%
大体今のままでよい	三六・〇%
わからない	一二・一%
答えない	六・三%

この問に関しては、極左的とみる者が四五・六%と、大体いまのままでよいとする三六%より多いが、この比率は前回の調査では前者が五〇・二%、後者が三三・二%となっていた。

次いで、具体的な行動形態を例にとり次の問を出してみた。

◇例えば、授業放棄などのストライキという行動形態をどう思いますか。

今のままのやり方で良い	二・二%
絶対にすべきでない	三二・九%
問題によっては必要	六二・四%
わからない	一・五%
答えない	一・〇%

「絶対にすべきでない」というものの三二%に対して「問題によっては必要」というものが約二倍の六二%に達しており、この結果は前回の調査とも変らず、必要ならストライキも辞さないという意欲がうかがえる。

◇今まで行動（デモ、メーデー、集会）に参加したことがありますか。

いつも参加する	五・六%
ときに参加する	七五・三%
全く参加しない	一四・七%
答えない	四・六%

いつも参加しているものが五%強であるにもかかわらず、何らかの形で参加している者が七五%にも達している。内わけは「行動目的によって参加」（二九・九%）「ときに参加」（三一・四%）「参加しないこともある」（一四%）全然参加したことがないという理由は「なんとなく」が五六・四%を占めその他に「勉強のため、暇が出来たら参加する」「主張に反対」というものが見受けられた。しかし「参加する機会がない」として組織の無いのを残念がるものが若干あったのは注目される。

そのことと関連させて、九大の単位自治会制の存在をどうみるかという質問に移ろう。

◇九大の単位自治会制の存在をどう思いますか。

必要と思う	六九・五%
いらない	四・六%
わからない	二四・三%
答えない	一・六%

「必要と思う」ものが約七〇%にも達しており「いらない」という理由にも「各学部に分かれた地方分権的なものでなく統一せよ」という意見が見られ、単位自治会制がややもすれば有名無実に陥りがちなことを指摘しているものがあった。

しかし、自治会の必要を認めるものも、自治会の現状に満足していないのは次の質問によっても知ることが出来る。

◇単位自治会の現状をどう思いますか。

いまのままでよい	一七・二%
あらためるべき点がある	六七・八%
わからない	一五・〇%

「あらためるべき点がある」というものが六八%あるのは注目される。この「改めるべき点がある」と答えたものについて、その点を指摘してもらった。

①学生から浮き上って一部の人々のみ活動している	三一・〇%
②学生の方が協力せずにさけている	三六・二%
③その他の意見	九・五%

①の指導者が浮き上っているというものと②学生が協力していないということが、ともに三〇%強ある事は、単位自治会の現状がこの両面から活発さを欠いていることを示し①②の意見両方を同時に指摘したものが二三・三%あったことも、それを物語っている。その他の意見の中には「執行部のみで支えられている」「アッピール方法を考えよ」「問題の取上げ方および理解の仕方に考慮する点あり」というものがみられた。

また自治会が全学連に加盟していることに関しては七二%が賛成を示していた。

◇九大の各自治会が全学連に加盟していることに賛成ですか。

賛成	七二・六%
反対	八・六%
分らない	一六・二%
答えない	三・六%

全学連には批判すべき点があるとしながらも、やはり組織を大切にしようという意識は強いことを物語っている。

◇現在の自治会活動は政治活動を中心にしていますが、これについてどう思いますか。

①積極的に政治活動を進めていくのは学生運動として当然である	四二・六%
②学生の利害に直接関係ある場合にのみ、政治活動すべきだ	二六・三%
政治活動は自治の領域を越えているから、学内の問題にのみ活動の対象を求めるべきだ	九・一%
わからない	九・一%
答えない	一二・九%

この問に対しては①、②の意見に加えて学内問題も忘れるべきでないとするものが数多くみられた。その他の意見調査としてつぎのことを質問した。

◇現在どのように学校での生活を送っていますか。

①授業に重点をおいて、サークル活動、学生運動には全然あるいはほとんど参加しない	二八・四%
②授業に重点をおいて、あまった時間でサークル活動、学生運動に参加する。	四一・一%
③授業と学生運動、サークル活動に同じように力をそそいでいる。	七・一%
④サークル活動、学生運動に重点をおいてあまった時間を授業にあてている。	一・一%
⑤サークル活動、学生運動に重点をおいて授業には全然あるいはほとんど出席しない。	〇・五%
⑥授業と学生運動、サークル活動のどちらにもあまり熱心ではない。	八・〇%
⑦授業と学生運動、サークル活動のいずれへも、ほとんどあるいは全然参加しない。	四・〇%
⑧その他。	七・六%
⑨答えない。	二・二%

◇あなたの支持政党は。

自由民主党	三・一%
社会党	六九・〇%
共産党	三・一%
その他	一・〇%
なし	二一・三%
答えない	二・五%

全学連十四回大会から（解説）

極左路線を再確認

組織内に矛盾生じる

反イールズ闘争で全国的な闘争をくりひろげた全学連は、反戦平和のスローガンのもとに、学生大衆の政治的組織化をおし進め、砂川闘争を頂点にみごとな反帝平和運動へと脱皮してきた。だが客観的情勢に対応する幾多の闘争を通じて、全学連は勝利と敗北の交替の中で、追及する政治目標と組織の発展との矛盾を蓄積しつつある。すべての民主的政治組織が、安保改定から憲法改悪につながる帝国主義復活のコースを阻止し、平和・中立・民主主義をつうじて社会主義へのコースを実現するために集結しつつある時点に、一人全学連は階級的革命を夢見て一九五七年極左的綱領を打ち立て、十四回大会で再度確認した。だがこの綱領はその時期その時期の学生大衆の無定形エネルギーとどれだけ密着しうるか、どれだけそれを汲み上げ組織化しうるか、さらにどれだけ発展させ指導しうるかを考えた時疑問視しないわけにはゆかない。

階級闘争と平和擁護

全学連第十四回大会でまず目についたことは組織が一本化されていないことであった。

東大、京大、北大、九大など雑誌「理論戦線」の共産主義者同盟を中心とする中執派と、共産党に大きな影響を受けている早大一文、神戸大、立命大などの反中執派は三対二の割合となっている。だが反中執派は様々な分子が集っているにすぎず、活動報告修正案に一三八名が票を投じ、中執の活動方針に反対票が一五七となっていたことはこの間の事情を示している特に活動の低滞している地域が「階級的観点」から積極的に闘争を組むことについてゆけず「平和と中立」という学生大衆への呼びかけだけで政治活動が成り立つ方に加わっている。

これを克服するためにイデオロギー闘争が今大会で大きな比重を占めていた。

中執派は昨年の共産党暴行事件ですっかり共産党と決別している。戦後の民主運動の中で共産党が権威主義に走り、行動では人民戦線が訪れた時期にセクト主義で不成功に終らせ、四九年占領政策転換期に九原則、ドッジ・プランなどに対する反帝闘争を組まず、日和見的態度をとったこと、六全協後民族独立を掲げ選挙闘争に終始していることに反感を持ち、その反動として極左的な階級闘争を強調している。一方反中執派は五八年以来の全学連の極左的方針に反対しながら、共産党の全学連批判の波にのり、大衆闘争の合言葉「平和・中立」を基本線とした。

中執派が方針の質を問題としているのに対し、反中執派は過去における組織化の量で対抗している。このように内部において反目する二派がほぼ同数でせり合うことは全国統一行動などに大きな障害となるが、二派とも反帝では一致し反独占には部分的にしろ共通点を持っているので、地域による行動形態は異っても、統一行動を起すには影響がないであろう。

民主戦線から孤立

全学連は砂川闘争で民主戦線の中で重要な地位を占めたが、その後の勤評反対、道徳講習会阻止その他の闘争で挑発的行動をとりつづけたため、実践面で民主戦線から避けられるようになった。また共産党、社会党はもちろん総評の幹部の方針を非難するため統一戦線から排斥されている。

国内で大きな影響力を持つ総評は「合理化反対、民主主義擁護」で組織をまとめ、一方「原水協」運動は「平和・原水爆禁止」の反戦スローガンを保っている。

すべての民主的政治組織が安保改定から憲法改悪につながる帝国主義復活を阻止するため平和、中立民主主義の線で整備されつつある時に、全学連は労働者階級の合理化反対闘争と安保改定阻止闘争を結びつけるように呼びかけている。

民主陣営からの孤立は実力行動の際に捕まった学生の裁判も独自でのり切るようになった。先頃の砂川裁判をはじめ奈良公判など延べ三十余名の裁判問題は全学連の財政力では背負いきれない程である。「公安条令を廃止せよ」というスローガンはこのような犠牲の上で出された独自のスローガンだった。

孤立化は全国的国民闘争に全学連の参加が心よく受け入れられないことにその弊害がはっきりとあらわれている。だが労学提携から合理化反対、安保阻止さらには岸内閣打倒のスローガンを持つ全学連は労働者階級の反帝闘争と通じるものがあるのであきらめることもないだろう。だが有効な大衆的闘争に積極的参加できないことに対しては、中執の指導上の自己批判が要求される。

忘れられた學園問題

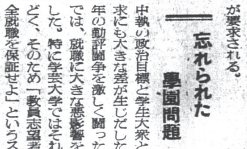
中執の政治目標と学生大衆との要求にも大きな差が生じだした。昨年の勤評闘争を激しく闘った大学では、就職に大きな悪影響を及ぼした。特に学芸大学ではそれがひどく、そのため「教員志望者の完全就職を保証せよ」というスローガンとなってあらわれている。「大学の軍事研究反対」「奨学金増額要求」「国鉄学割運賃値上げ反対」など全学連独自の運動は外部的政治闘争の影にかくれ、おざなりに扱われている感が深い。活動報告でも自治会の動きなどなく実力行動のみが評価されて学生大衆との結びつきが忘れられている。これは財政問題に対する無方針に具体的にあらわれている。学生大衆の運動は下からの運動であるべきなのに中執、反中執の両派はたがいにイデオロギー闘争に終始したことが十四回大会の特色であった。

今後全学連は学生大衆の主体的変革を目ざして学生と組織的に密着し、勝利と敗北の中で生れる組織の危機に、民主と集中とさらに批判による内部矛盾の解決をはからねばその目指す道はますます遠くなるであろう。（V）

松原風土記（1）

年輪は語る

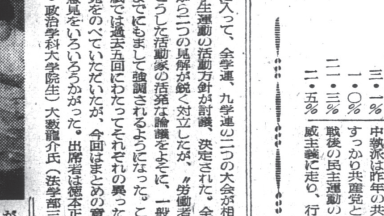
―林学教室―



ここに登場願うものはいずれも一見何の変哲もないといった類のものばかりだが、学園内の一隅から拾いあげたものである。紹介は記者が訪れた順で始める。先ずは〃農学部林学教室の年輪標本〃から。林学教室の正面入口を入ると左右に輪切りにした大きなヒノキの丸太を見ることが出来る。由緒因縁を尋ね「識るは愛することの始めなり」の故知にならうことにして、かつて勇姿を誇った桧の王者にここで暫く語ってもらうことにしよう。「私が台湾で生れたのは九大の先生に診てもらうと西歴八二六年すなわち菅原道真が亡くなった年ということになる。現在私の横腹には年輪の上に「平氏壇浦に亡ぶ」「コロンブスアメリカ発見」「赤穂浪士吉良邸に討入り」といった調子で一千百年間にわたる私の生涯が解るように注釈が記されている。御用と御急ぎのない方はぜひとも一度お立寄り下さい。私達ヒノキ仲間ではまずは長生きした部類にはいるのですが、私の本体は今もなお代々木の明治神宮の御鳥居として直径五尺七寸の勇姿を誇り仲間の羨望の的となっています。海を渡ってきたのは大正五年のことですが、東京と博多とに別れ別れに置かれているとはいえ隠居した後も玄関の飾りものになるなど仲間達の悲惨な生涯に比べ全く身に余る光栄です。

不足してる日常活動

結集したい　クラスのエネルギー



学生運動を再考する

六月に入って、全学連、九学連の二つの大会が相ついで東京と長崎で開かれ、そこで、今後一年間の学生運動の活動方針が討議、決定された。全学連大会では昨年に引き続き、情勢分析の食い違いから二つの見解が鋭く対立したが、〃労働者との共闘〃がいっそう明確に打ち出された。一方、こうした活動家の活発な論議をよそに、一般学生の無関心が指摘され、或いは〃ハネ上り〃が今までにもまして強調されるようになった。こうした中で正しい学生運動のあり方をさぐるため本紙では過去五回にわたってそれぞれの異った角度から「学生運動を再考する」というテーマで意見をのべていただいたが、今回はまとめの意味で四人の方に集ってもらい、学生運動についての意見をいろいろうかがった。出席者は徳本正彦氏（教養部講師・政治学）高比良光司氏（法学部・政治学科大学院生）大藪龍介氏（法学部三年・九学連委員長）岡部栄子氏（教養部二年）

學生運動は本來幅の廣いもの

学生運動といえばすぐ結びつくのが政治運動である。そこでまずアンケート①の結果を見ていただきたい。これは最近、各学部の九大生を対象に行った「学生運動についての意見調査である」大半が学生の政治活動に意義をみとめているが、徳本氏は「学生運動イクオール政治活動という社会一般の常識があるが、学生運動が政治活動として機能せざるをえない点に問題があるのであって、学生運動とは本来もっと幅の広いものである筈だ」という、しかし「現在の資本主義社会の矛盾が学生層の中にもあり、それが表面化した面が学生運動にみられる。したがって自分達の生活基盤がゆるがされようとしている以上政治活動になりがちなのは当然のことである」と大藪君がいうように、学生運動が必然的に政治運動化するのは否定出来ないことであるしアンケートの結果もそのことを反映している。だが、それはそれとしても「その政治的機能の必然性を理解出来ない学生と指導層との意識のギャップをどうするか」（徳本氏）ということは、学生運動の最も重要な問題といえよう。

全學生の意識に立った「轉換」か

それでは今度の全学連大会でどんなことが討議されたのだろうか。代議員として出席した大藪君はかいつまんでこう説明する。「これまで学生運動は原水爆禁止運動を基点とした平和擁護闘争を軸に動いていた。ところがそれがだんだんゆきづまりをみせて来た。単なる平和擁護闘争では限界がある。平和と一般的にいってもその内容が明らかでなかった。やはり労働者が進めて行く階級闘争の中で学生運動を位置づけ、プロレタリア階級の同盟軍として運動しなければならないということになって、昨年の転換論が打出され、それを一そうおしすすめたのが今回の大会である。極左的である。という批判もあるが昨年の警職法、勤評闘争も単なる平和擁護闘争ということでは取り組みえなかった問題だ」全学連は七、八中委及び昨年の第十一回大会と三年の間に二回の方向転換を行っている。高比良氏はこれについて「方向転換は全学生層の意識の転換の上にたったものかそれも単なる指導者層の頭の中だけの転換なのか。学生の意識は運動を通じて発展するものであるから、その意識の発展過程を考えるべきだ。もし転換がこうした発展過程を無視したものなら大へんな誤りというべきだ」と問題を投げかけた。次々に打出される全学連の転換論はあるいは理論の高度化にはこうした不安が確かにつきまとう。そこを大藪君はこう説明する「今度の大会で更に明らかに打ち出された転換の路線はすでにそれ以前から指導者層の意識にはあったのだが、それが警職法などの一連の闘いを通じての学生の意識の高揚の結果、はじめてはっきりと正面に打ち出せたのだ」

どうする指導者とのギャップ

ここで警職法闘争のことに論議が集中されたが徳本氏は「警職法闘争の時学生があれだけデモに参加したのは運動の指導方針の正しさによるものか、それともあの時の社会の雰囲気によるものかを考えるとどうも後者の方がより確かなようだ。もしも指導方針の正しさにより多く支えられていたならその後もっと永続的な幅の広い運動に発展を見たはずだ」と過大評価をいましめる。警職法闘争の時最も力強く闘ったといわれる教養部で闘争委員をしていた岡部さんは「はじめ二回のデモの時は大多数の学生が参加したのに、三回目の組織労働者を中心とした全国総決起大会の時は動員はガタ落ちになった。学生だけでは力が弱いから労働者と共闘するというのはおかしいし、実感としてついて行けない。学生はやはり学生としてやるべきだと思う。こういう意識は学生一般にもあることは動員数が物語っている」という指導者層とのギャップは大きい。「ギャップを最大の問題としてとりあげるべきではない。いかなる運動の中にもギャップは存在するのだしそれにあまりに過敏になると運動が低滞する。学生の中にも運動回避の責任がある」だが、と高比良氏は続けていう「指導者と一般学生とのコミュニケーションを無視すれば指導者の尖鋭化はまぬがれない。だから学生間のあらゆるサークル、クラス等のエネルギーを動員させる力をもって動くべきだ。それがまた根強い運動となって行く」

必要な學生層の意識の把握

学生の無関心ということはいつも指摘されることだが九州で最もアクティブだといわれる教養部でも「クラスの盛り上りはかなり出来ているがサークルはほとんど動かない」のが現状である。そこを教養部の岡部さんはこういう「たとえば安保改定問題にとり組む場合にも、執行委員がクラス討議に出て来て、何日にデモをやるから出て欲しいという。安保条約の本質を検討することは大変おろそかで、いきなり行動形態のことが持出されるのです。指導者の頭では十分問題の分析がなされているのでしょうが、私たち受けとめる側ではそれだけの意識の高まりがないから意識のズレばかりが感じられて、何となしに反発する気になって来る」ここから悲観論が出て来そうだ。「ズレにあまり過敏になってはいけない」という高比良氏は、しかし、第二分校時代の自治委員の経験から次のようにやや楽観的だ「あの頃は分校統合問題が中心だったが、連日学生大会を開いても流会することはなかった。意識の高まりは非常なもので、学生運動の指導者もこの中から自発的に、しかも多数出て来た。ズレという事は感じられなかった。このことが現在にもあてはまるかどうかはわからないが、それが出来ないことではない。学生の要求が何であるかを指導者は常に正確に把握しておく事が大切だ」という。「現在ますます学生運動が社会的な要因で抑制されている点がみられる」（大藪君）というように社会的な条件の変化はある。それでは「そういう点を認めて、果してあのような全学連の方針を打ち出しても実際に運動が出来るだろうか」（徳本氏）という疑問が出て来る。

さらに「運動方針に問題がある」と徳本氏は言う「それはまるで革命政党の革命戦略を出しているみたいで、もっとみじかな全学生を抱合する問題にとり組めないものか」だが「そういう問題だけで全学生をもり上げて運動を起すまでに意識を高めることは出来ない」（大藪君）という問題が一方にはある。この問題は「八中委論争」として昨年、本紙でも取り上げたことがあるが、未だ指導理論の底流として存在しているむずかしい問題である。

物好きで學生運動をしていない

最後に学生運動に対する提言を聞いて終りとしよう。「学生運動はいまこそ後を振り返る時だ。指導者は自分の政治観念だけで運動を進めてはならない。学生以外の人たちがどう見ているかは、学生運動を左右する大きな問題である」（徳本氏）「国民運動の一環として学生運動はなさるべきだ。学生が一般の人々にあいそをつかすのは勝手だとしても、国民からボイコットされてはならない。教授との共闘をもっとはかるべきだ」（高比良氏）「指導学生に対する理解がほしい。我々は物好きでやっているのではない。自分達の運動であるということを自覚してもっと積極的に参加してほしい。建設的な批判は卒直に受ける」（大藪氏）「私達がもっと気楽に運動に参加出来るチャンスを与えて欲しい。組織を守ることの大切なことは十分わかるが、実感としてついて行けない点がずい分ある」（岡部氏）

ダイヤモンド社　就職手引書
東京千代田区　振替東京25976
図書目録送呈
絶賛重版
ダイヤモンド　会社就職案内　大学篇
B6判四〇〇頁　三五〇円〒20
全国の業種別重要六三七会社の概要、試験期日と場所、試験科目、論文、作文の題、採用方針、初任給、役員の氏名、出身校、担当業務、出身県などを詳記。一六四社の英語問題、一〇社の模範解答を収めた。
新企画……大学生の就職シリーズ
就職試験・これだけは心得おくべし　ダイヤモンド社編　B6　二五〇頁　二三〇円〒20　☆発売中　就職試験の受け方と準備の仕方　志望会社の選び方と会社内容の調べ方　会社はどんな人を求めているか　試験官の心理　合格を左右する五つの問題点その他
面接試験・これだけは心得おくべし　ダイヤモンド社編　B6判一五〇頁　一五〇円〒15　☆6月25日発売　わたしはこうして合格した（体験記）　面接試験はこのように行われる　面接試験では何を見るか　面接試験の上手な受け方と服装法
時事論文作文の書き方　ダイヤモンド社編　B6判二三〇頁　二〇〇円〒20　☆発売中　時事論文・作文の書き方　論文資料の作り方　会社合格者の時事論文・作文模範文例　最近三カ年の出題傾向とその対策　現代かなづかいの要領　音訓別当用漢字表
時事英語の読み方　ダイヤモンド社編　B6判二三〇頁　二三〇円〒20　☆6月25日発売　英字新聞の読み方　解答の要領　英文（政治・法律・国際・産業・経済・労働・教育・社会・文化・科学）　最近三カ年の問題の傾向　最近重要英語集　略語集　ことわざ
以下続刊

岩波新書　6月新刊
岩波書店　東京・神田　振替東京26240
B・ダンハム著　粟田賢三訳　鎖につながれた巨人（下）
人類解放の哲学――哲学は人類解放の理論でなければならないという考えに基づいて書かれた新しい哲学入門書。上巻には宇宙論、下巻には認識論・倫理学を収める。世界は変化するものであるか、われわれはその変化を統御することができるか、真理の基準と価値の方法は存在するか、人類社会の到達すべき最高の目標は何か、等、現代社会の根本問題に新鮮な理想をもって答える（上下各一〇〇円）
渡辺照宏著　死後の世界
人間が死んだあとはどうなるかという問題は、歴史と文化の各段階において常に人間の最大関心事であった。本書は、考古学・民俗学・歴史学等の最近の研究を基にして、原始人・古代人から現代の文化的諸民族に至るまで、この問題をどう考え、具体的にその考え方を死者儀礼という形でどう現わしてきたかを考察する。著者はさらに肉体と霊魂の関係にも立ち入って、死に対する著者自身の心構えを語っている（一〇〇円）
泉靖一著　インカ帝国
砂漠と高山の文明――南アメリカの太平洋岸に沿ってインディオが築いた壮大なインカ帝国は、征服者スペイン人の目をみはらせた。巨大な神殿、石の彫刻、土器、黄金細工などを生んだその文明は、メソポタミア・ナイル・黄河の古代国家に匹敵するものとして、近時の国際学界で大きな話題となっている。著者は数回の調査旅行の体験と最新の学問的成果に基づいて、この文明の謎を解き民衆の生活を語る（一三〇円）
〈結縄を読むインカ貴族〉

科学

科学は制御できるか

個人の立場で技術操作を

………大森恭輔………

変り得るものしか人間は変えることができない。進歩でも退歩でも人間のやれるもの、或は人間の制御できるものはすべてこの制限を受け範囲を越すことはできない。科学もこの範囲内のことであり、科学が現代の問題にされる理由もこの範囲内で科学が人類に色々の効果をもたらすことから起っている。悪化したといわれる現代の人間関係は、昔には無かった科学が生れたからである。もうちょっと科学の方向や処理を変えれば救われたのではなかろうかと疑問をもつ点に現代科学の問題があり又広く現代人の問題が横たわっている。つまり現代にあっては科学が独走していて、完全に制御されていないことを裏書きしているものである。

「制御」は決して古い言葉ではなかろう。しかし「征服」よりは新しい言葉であろう。その中には力による屈服ではなく、思いのままに使えるという意味が強くでていることは否定されない。もう一つは力以外の方法即ち知的なもの、話合いによるもの、或はそれに類するものによってなされてもよいことを示している。かつての名著ウエルスの人類の健康と富と幸福の中にある科学による気候の征服、食物の征服…といった言葉のニュアンスを上まわるものでありサイバネティックス時代の語感である。「科学が生んだ原爆以来の科学の暴走は科学の完全制御によってしか防ぐことはできない」といった言葉の使い方で制御の意味を汲みとって欲しい。

最近の哲学の貧困、衰タイはとうとうジャーナリズムにまで上った。哲学が科学を制御することはできないとさじをなげてしまっている。根本的な問題の根本的解決ではなしに、ただその発見位が哲学の課題であるといった、全く棄てばちの議論がなされている。私は敢えて問うてみたい。では何故敗戦後最初に売れた本は哲学書だったのであろうか。結論は哲学の貧困ではなくそれは流行にすぎない。そしてその流行を作ったものは社会の現実的情勢に外ならない。

つまり哲学でも科学でもそれの活動の根源になっているものは現実の人間の社会なのである。これは誠に驚くべきことであり、まさに科学が制御されるという可能性を示すものである。

科学が現実に制御されており、その可能性が存在するにもかかわらずなお科学が制御されていないということになれば、それは一つには制御が意識的に行われていないという事と、もう一つには制御の目標、方向が悪いということに結論づけられる。先ず前者の問題になる、意識は個人以外にはないのであるから、或る個人の意識の中に科学制御の構想と知識体系が成立しなければならない。これはやはりひと昔前のカレル、ハンティントン、ヌーイの試みたものである。カレルの議論等は中世の僧の様な生活をしなければ現在の膨大な知識を制御することはできないしかし中世の僧侶のような生活は一部の人にはできるであろう」といっている。

しかし現代の科学は当時以上にずっと統一のある体系になっている。もともと科学は現実の世界の未知から驚くべき知識を獲得してくるものではあるが、新知識は既存の知識をもとにしてしか生れない。子供は親とはちがうがやはり親を媒体にしているように知識は知識を媒体にして知識を生んでいく、知識は一つの群を構成し進化論的な体系をとっているといえるのである、（この最後の類推は知識の生存説を許す点等、考えると多々微妙なものがある）進化論的体系ならば一つのベースがある訳でこのベースを見出せば制御は決して困難ではなくなる。現代人は余りにも忙しいからベースに眼を向けるチャンスを失っているにすぎない、本来的にいって科学は意識的に制御可能である。もちろんこの場合は主体が個人であるから善悪の判定はないわけである。ただここでの制御可能とは

変り得るものと変り得ないものの条件を見出すことである。

制御の方向の善悪論は人間関係だけからしか生れない。人間関係はその中に生物関係まで含まれているきわめて古いものである。即ちなかなか変え難い頑固なものをもっている。しかしとにかくすぐ分ることは人間と非人間の区別をつけることが極めて容易なのである更に現代人は社会生活をしているそのおかげで科学のとばっちりを受けている訳なのである。社会生活は経済生活で裏づけられている、経済生活は物質関係につながっている、科学の問題は当面物質関係のものであるから科学はこの物質関係のベースを与えてやらなければならない。確かにこれこそ物質科学の義務になるものであろう。物質生活のベースを見出せば科学の制御の方向がきまる。近い将来人間科学、生命科学が発達してくれば科学の制御はもっとファインに調節できるようになる。

以上で科学は制御できることを証明した。では一体現実に誰がするのか、それは科学の制御をする方が他の制御たとえば政治による人民の制御より早道であり、有効であることを知った人々である。科学を知っている筈の科学技術者は大抵、科学を自分の保身に使っているだけである。彼等がそれは科学という人類の共通の財産に対するボウトクでありもう一度人間に立ち返りたいと思わなければならない。或はカミユのようにソリテールとソリデールの間をさまよっていては何もならない、連帯と孤独とは相互にフィードバックをしているので一方にかたよったならもう一度又強く元に戻るという精神の持ち主でなければならない。或は科学をギリシヤ時代に、又はルネッサンス時代に興した人々とその社会と同様な群でなければ科学の制御はできないであろう。

最後に特に若い人に考えて頂きたい点がある。諸君の志している科学技術はある特定の対象物を制御することにあって、そのために科学を学んでいるのである。科学自身を制御しようというのではない現代の分化され、職業化された社会では世界の中の一つの事象を制御するだけで十分生活でき、しかも保証される。しかしその保証は既存の社会や組織が保証している当然組織の保証するものは人ではなく技術である。しかし技術は人にくっついていて離れないから止むを得ずその人まで保障するにすぎない。こうして農民の保守性とはちがった意味の科学技術者の保守性即ち既存社会への強い依存性が生れる。最早社会の健全な一員ではなく一つの精巧な自動機械にすぎなくなる。もっと悪いことには最高の科学知識の保有者群が社会について何の指導性ももたなくなってしまう。

社会は人間のつくるものである。また一方では社会が人間をつくっていく。これはフィードバックである。人間→社会→人間の循環をつづけなければ停滞してしまう。就職という点で社会に接近すればその次には再び人間に接近しなければならない。自動機械に終らずに本来の個人に帰り、個人の立場から人間関係を見、社会の一員に戻る必要がある。その際自分のもっている科学技術の力で科学技術全般を完全に制御する必要がある。（おおもり・きょうすけ氏は工学部教授）

るっぺ

画と数学

金原誠

先日上野で第五回国際美術展を見学した。会場に入ると偶然知人の画家に会ったので一緒に見て回った。非具象を主力とする流行画がいつまでも続く単調さに退屈して来た時、「無限の空間の記号」という画にぶつかって立止った。その画に感心したのではない。標題が私の注意を引いたのである。

無限も空間もそれぞれ一つの思想である。それは論理的な思考の上に立って説明されるべきもので、画布上の色と形のみで視覚によって正確に伝え得るものではない。また一度それが解明されれば記号は一つの字母またはそれに準ずるもので済み、百号の画布を要しない。私はそう考える。ところがこの画はその考えの正反対を断行しようというのであるから、私は立止らざるを得ない。

もちろんこういう事はある。卑近な例でいえば、二次元のロバチェウスキイ空間は複素数平面の単位円内に表現される。この場合無限遠点は単位円という小さな円の周上の点で表される。けれどもそれは論理的考察による距離とか運動とかいう思想の上に立って説明されるのであって、ただ画布に円を描いたのみでロバチェウスキイ空間だと主張するのではない。ところで、この画布で作者が伝えようとしている無限の空間とは一体何であろうか。この絵を見るだけでそれが感得できるのだろうかという点に興味を感じたのである。

その間、連れの画家とこんな会話を取交わした。

「無限ってどういう意味でしょうか。次元は何次元のつもりなのでしょうか。距離空間なのでしょうか」

「それはそのう、数学的空間ではありません。芸術的空間です」

「その芸術的空間とは何ですか」

「むつかしいものです」

「私のような門外漢に説明することはむつかしいとしても、この画の主張する空間と、あなたのいう芸術的空間とは一致しますか。つまりそれは普遍性を持ちますか」これに対しては遂に答えて貰えなかった。

数学では例えば先のロバチェウスキイ空間の単位円による表現にしても、順序を追って説明を聞けば、理性の持主である限り誰にでもわかる。画はこの展覧会の例のように専門家に聞いても、感覚の持主なら誰にでもわかるとはいえない。独創となると、普遍性を持つものほど困難だから、難易の順は反対になると思うが、単にわかるという点からいえば数学は最もやさしく、現代絵画などは最もむつかしいものだろう。そのむつかしい現代絵画がやさしい数学よりも人気があるのはどういうわけであろうか。（工学部教授・応用理学）

◇　◇　◇

涙が出た「旧友」の演奏

九大オケ輝く五十年の伝統

鳥山隆三

演奏中の九大フィルハーモニー

六月二十一日午後、デンキホールで超満員の聴衆を迎え、九大フィル五十周年記念演奏会が盛大に行われた。この演奏会の企画の第一歩から現役指揮者兼幹事長の穴山健君、副幹事長の松本明、竹下研三両君らと苦労をともにした私には月並だが全く感慨無量である。九大フィルはいうまでもなく学生を主体とし、OB、職員、それに福岡在住の好楽家も加わっている。したがってプロ・オーケストラと違って技術的にも高低の程度が種々様々であり、また学生一本でまとまっている運動部とは比較にならぬほど練習上の制約を受けている。このような異質な構成要素から成るアマチュア・オーケストラが一つにまとまってゆくのは音楽への愛情とメンバーの心のハーモニー以外の何ものでもない。

九大フィルの場合にはさらに、何ものにも替え難い半世紀の伝統が大きな力になっていることを忘れてはならない。

記念演奏会の出場人員は九十名を越し、九大フィル始まって以来の大編成となったが、それだけに、これをまとめあげる石丸寛氏始め指揮者たちの苦労は並大抵ではなかった。たとえばベートーベンの第五交響曲の出始めの有名なモティーフは全楽器の全奏で、指揮者は出だしを合図するだけであとの三つのトの音は九十数名の心が一致しなければ絶対に三つの音には聞えない。練習中に石丸さんは「オーケストラは運動会ではないから一等になってもちっと偉くありませんヨ、みんな一緒にゴールに入らなくちゃ…」といってまとめてくれた。

最初の「レオノーレ」序曲第三番から始まり、第七交響曲第二楽章第五交響曲全曲は、いずれも高度の演奏技術のいる曲であるが、荒谷、穴山、石丸、三人の現役指揮者の棒で、一部分ミスはあったにせよ、九大フィルとしては音楽的にも上の出来だった。短い練習期間の間に九大フィルをこれだけまとめあげてくれたのは三人が指揮者としても優秀であることはもちろんであるが自分たちが育った九大フィルへの愛情なくしては到底望みえなかったかもしれない。

荒川先生始め大先輩たちも昔とった杵づかで二十年振り、三十年振りの棒であるにかかわらず指揮者としての風格、貫禄十分、九大フィルの伝統の良さを示してくれた。

四人の大先輩の指揮は地方からはるばる演奏参加に来福したOBメンバーには感激そのもので、私自身も石川勝治先輩の「旧友行進曲」をひきながら涙が出て仕方がなかった。

このような楽しい感激に満ちた音楽会は演奏に参加したメンバーにとってはもちろんであるが、九大に関係のない聴衆にとっても一生忘れえぬ楽しい想い出として残ることを確信している。（理学部教授・音楽部長）

御進物に御土産に
博多銘菓　ひよ子　吉野堂
福岡市新天町東入口　TEL④ 7300 7227

松原賞 入選は「難渋」

小説十六篇が応募

中村（なかむら）節生（せつお）
八幡市香月町上香月　敷田作方

第二回松原賞小説は、五月十五日の締切までに合計十六篇の応募があり、第一次（部内）および第二次（選者）選考をへて、中村節生氏の「難渋」が入選と決定した。なお選者谷川雁氏の希望により、二次選考には一次選考通過作のほか、全作品を提出して通読していただいた。

応募作品

（到着順、○印は一次選考通過作）

▼○難渋（中村節生・八幡市）▼○渦（秋山巌・佐賀市・教員）▼○奇跡（正木俊・門司市・教員）▼給水当番（大賀幸夫・小倉市・療養者）▼部屋の中（佐多恵一・福岡市・文学部四年）▼○美しき手（末次弘・福岡市・文学部四年）▼探淵（谷川洋三・福岡市・文学部三年）▼帰省（野里燎一郎・福岡市・教育学部四年）▼妹（北山正夫・川内市・不明）▼失心（中雄一・福岡市・文学部四年）▼再生（福田よしかず・福岡市・文学部四年）▼○犬たち（上井博・福岡市・文学部四年）▼裁断（富田耕作・下関市、不明）▼奇妙な奴（藤田広一・若松市・教養学部一年）▼鉄格子の中の青春（木原範泰・福岡県粕屋郡・文学部大学院二年）▼○雲雀（中村正元・福岡市、学生）

感想

中村節生

このさいP・Rを致しますが、北九州工業地帯から革命的ロマンチズムの精神にあふれた芸術を生みだしていきたいという方がいらっしゃったら連絡してくれませんか。こんなに労働者がい集していながらいつまでも火野葦平の「革命前夜」というがごときナンセンス文学をのさばらしておく必要はないと思うのです。そして又現在氾濫している文学サークルにおける台所的リアリズムでは、例えば「この天の虹」という映画に登場する溶鉱炉のそばで三十年も働き抜いた、耳が少し遠くなっていて、家に帰れば大声をあげてお話のけいこしかすることのないといった老いた労働者の魂の底に沈んでいるニヒリズムというものを捕捉し大胆に白日にさらけだすことは出来ないと思うのです。もともと革命とはロマンチックなものだと信じているのですが、旧い文学に対しては革命的であることでそれを砕き、文学サークルに見られるような台所的リアリズムに対してはロマンチズムの精神で対峙する。まあそういったものです。如何ですか。一緒にやってみたいと思われる方ございませんか。入選の感想ってまあまた一杯飲めるかというくらいのものですが、嬉しいことには違いありません。しかしよくもまあこんな恥かしいことを書き散らしたものだと自分の厚かましさにはいささか呆れています。こんな破れ小説を書く暇があったら、カフカのラブレターでも読んでいた方が良かったと思います。なおこの小説を読む人は……なにおかいわんや、です。

略歴　昭和十年一月一日生。昭和二十八年三月八幡工業高校を卒業。二十九年四月九州大学に入学。三十四年三月文学部独文科を卒業。現在八幡市役所福祉課保護係に勤務。現住所は八幡市香月町上香月、敷田作方。

選評

対象化されてない幸福論

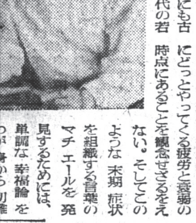
谷川雁

数ある作品から一篇を選ぶという行為と作品の批評との間にはちょっとした差があると私は思っている。その作品が文学と呼ぶに値いしないと考えられるばあいはそのいずれも成立たないわけだが、文学としてひとまず認めても批評する気にはなれない作品だってざらにあるからだ。しかし、自発的に批評する気になれない作品もある強いられた決意のもとでは優劣を決めるぐらいできないことはない。松原賞選考を引きうけた私はしたがって、文学として認めてもかまわない作品がありさえすれば、かならず一篇をとろうという態度であった。

なぜそんな苦役に甘んじる気になったかといえば、ある種の反対給付を期待したからである。つまり作品の内外にからみついている現代青年気質のおそろわけにあずかりたいと思ったのである。鉛筆書きや走り書きの原稿に氾濫している誤字だけでもけっこう楽しいもので、自己紹介の欄に「××賞をねらう」とか「文学士志望」とかあるのを見ると、ひさしぶりに自分の魂がいかなる悪意とも無縁に水泳ぎでもしている感じになった。いや、この程度の娯楽なら同人誌やサークル誌の一、二冊もめくればあいさつに困るくらい出っくわすので、松原賞選者の特権をひけらかすまでもない。私の心理学的関心がいささか満足をおぼえたのは、すべての作品がつづり方的発想とめどなき雄弁との組合せであることだった。小説作りの上での優等生とはお義理にもいえないゆえに、それだけますます毎年大量生産される小学校の優等生に作者自身が似ているのだった。いうまでもなく私は劣等生と同じくらいにすべての優等生をあわれんでいる。彼等こそ社会の貧困な想像力を身をもって立証している代表たちなのだから。

おそらくこれは文部省の教育方針の勝利とみなしてよいのかもしれない。どんなに反逆の意志を呼号してみても、道徳的に善、芸術的に美、科学的には真といった普遍性への信仰が根強く巣くっている

これらの作品は、表現形式の大破綻にもかかわらず、あまりにも古めかしいことでかえって現代の若



い世代の一側面というよりは主要な特徴をさらけだしている。そこでは痛々しいまでに入学、就職、恋愛の成就というような分りやすい生活目的が単調きわまる幸福論に支えられて繰られる。国木田独歩流もあれば大江健三郎風もあるとはいえ、このそらぞらしい亜流たちから逆に類推してゆけば両者がほとんど半歩も隔たっていないことがあざやかに浮びあがるという奇妙な効果もある。

ストーリイのどぎつさにくらべてテーマがいっこうに見あたらないものと構成の意図が露骨になればなるほど文体が先祖返りをしてゆく傾向とは同じ原因から走りでた二本の平行線である。いわばそれは文明の退化現象であって、もしこれらの作品が九州大学とその周辺の青年たちにおける知的緊張の平均水準を示すと仮定すれば、私は日本の現代が長患らいのはてにどっとやってくる疲労と衰弱の時点にあることを観念せざるをえない。そしてこのような末期症状を組織する言葉のマチエールを発見するためには、単調な幸福論をわが身から切離し、それを屑箱に捨てるのではなく、まないたの上にのせなければならないだろう。小説という形式はいつもこのように時代の疲労と衰弱の中にある幸福論とのねばりづよい格闘によって新しい芽を育ててきたことを忘れてはなるまい。その意味で、卑賎なものに最強の敵をみつけることができず、単に弱々しい敵しか作りだしえていないことが応募作品のほとんど全部にみられる致命傷である。

さて、その中から私は「難渋」（中村節生）の一篇をとった。これにもとうてい見逃すことのできない欠陥はある。主人公と作者を分離する何物もない地点でコッケイにも主人公は芸術派を気どり、それが「難渋」の唯一の原因とみなされているばかりでなく、作者は主人公のため応援演説すらぶっている。時間的叙述は紛乱し、今日の事件が「翌日」と記される始末である。退屈な幸福論は半ば以上作者自身を溶解させている。だがいたって常識的な設定ではあるけれども、すくなくともここには身にしみた「難渋」の足跡がある。それはある程度オリジナルな心情の模様と文体をうみだしている。つまりそれはつづり方と雄弁の組合せにすぎないけれども、土俵を割る一歩手前でこらえることによって図らずも獲得された現代性の臭気がある。

このほかに「給水当番」（大賀幸夫）がたどたどしい叙述ではあるが、兵士の戦地における日常勤務を何のへんてつもない角度から描き、かえって真相に近づいている。日本の旧軍隊を見る視角としては正確だが、現代を衝撃する力に乏しい。一種の写生文としての面白さなので採らなかった。（詩人、福岡県中間市在住）

ながいご愛顧　かがやく伝統
日本育英會奨學金支拂事務お取扱
第一銀行
本店・東京丸ノ内
福岡支店・下西町
渡辺通支店・桜木町

共立出版の科学・技術書　予約募集中
（各詳細内容説明送呈）
講座名を御明記の上お申込み下さい

現代物理学演習講座　全8巻
〔編集委員〕小野周　高橋秀俊　伏見康治　宮島竜興
❶力学❷熱学・光学❸電磁気学❹原子物理学❺数理物理学・核理物理学❻量子力学・原子核❼統計力学・固体電子論❽電磁波・磁性の全領域を収めた関係学生必備の演習書。
〔各巻〕A5・8ポ横組上製本・約二〇〇〜三〇〇頁　価三〇〇〜四〇〇円　毎月1巻刊・分売も可
第一回配本開始（第2巻　熱学・光学）

新分析化学講座　全12巻
〔編集委員〕岡宗次郎　永原太郎　三宅泰雄　武者宗一郎　藤永太一郎　武藤義一
〔全巻項目〕❶機器ガス分析法❷微量電気分析法❸微量光分析法❹放射化学分析法❺❻有機試薬による分離分析法❼容量分析の応用❽迅速試験法❾❿⓫標準分析と試験法⓬分析のための新技術
〔各巻〕A5・9ポ横組約二八〇頁・上製函入　各定価四八〇円　全巻前払五四〇〇円　毎月1巻刊・分売も可
配本開始　6月下旬

電子・通信工学講座　全12巻
〔編集委員〕川上正光　喜安善市　永井健三　森脇義雄
電子工学・通信工学の全分野を網羅して、数学・物理・化学の基礎学科からトップ技術に至るまで最新の成果により洩れなく収録平述した。最高権威者の編集になる決定的体系版
〔各巻〕A5・4〜6項目分冊函入・平均三〇〇頁　各定価四八〇円　全巻前払五三〇〇円　毎月1巻刊・分売も可
第一回配本開始

核物理学講座　全13巻
監修者　菊池正士・木村健二郎・湯川秀樹・朝永振一郎
正確な理論と実験技術を最新データで詳述した専攻学生・技術者必備書。
〔各巻〕A5四〇〇〜六〇〇円
配本開始　6月上旬

基礎数学講座　21巻　完結発売中　各三〇〇円
現代数学講座　12巻　完結発売中　各四五〇円
スミルノフ高等数学教程　12巻　4回配本中　三五〇〜四六〇円
数学演習講座　15巻　完結発売中　各三〇〇円
原子力工学講座　6巻　完結発売中　各五八〇円
物性物理学講座　12巻　12回配本中　四〇〇〜六〇〇円
分析化学講座　10巻　完結発売中　各三八〇円
高分子実験学講座　14巻　13回配本中　各六〇〇円
現代生物学講座　10巻　完結発売中　各五八〇円
生化学講座　15巻　5回配本中　三〇〇〜九〇〇円
経営工学講座　10巻　7回配本中　二八〇〜四六〇円
応用力学講座　20巻　続々刊行中　各五〇〇円
建築技術講座　8巻　5回配本中　二八〇〜四六〇円
設備工学講座　6巻　3回配本中　三五〇〜四六〇円
機械工学講座　30巻　続々刊行中　各三八〇円
基礎電気工学講座　15巻　5回配本中　三〇〇〜四六〇円
第2次通信工学講座　12巻　完結発売中　二六〇〜八五〇円
エレクトロニクス講座　12巻　完結発売中　二八〇〜四六〇円
ラジオ・テレビ講座　6巻　完結発売中　各二九〇円
最新テレビ受像機　5巻　3回配本中　各二九〇円
微生物工学講座　9巻　完結発売中　各五五〇円
石油炭化水素化学　8巻　完結発売中　四五〇〜六六〇円
染色加工講座　7巻　6回配本中　各六八〇円
写真技術講座　8巻　完結発売中　二八〇〜三五〇円
現代心理学体系　15巻　14回配本中　二八〇〜四五〇円
共立講座　世界の教育　10巻　7回配本中　各三八〇円

東京都神田局区内駿河台3の9・振替東京57035番

就職に就いて

学生の皆さん！長い間の学窓生活を終えて実社会へ巣立たれる日が近づきました。夫々自分の進むべき道については充分考えておられる事でしょう。希望や夢を抱く反面に就職難を如何に切り抜けようかご心配しておられること思います。

今日、日本経済が如何に苦難の道を歩いているかは経済や法律や其の他の研究を通じて皆さんよく御存じの事と思います。

社会には大きな企業や小さな企業が沢山あって皆重要な社会的機能を果しています。そして皆さんの教養や専門的知識は社会のあらゆる部面で広く要求されています。

皆さん！日本経済の実状を充分認識して就職先の選定を慎重にし、正しい人生の第一歩を踏み出して下さい。

今日皆さんが就職先を選定されるにあたっての御参考迄に且企業としてのP・R運動を兼ね相互銀行という一つの職場について紹介させて載きます

相互銀行とは

相互銀行とは、戦後わが国の金融機構改革の一環として、昭和二十六年六月公布された相互銀行法により、新しく創設された金融機関であります。従って相互銀行は、戦後のわが国経済社会の要求の中から生れるべくして生れてきたものであって単にその前身である無尽会社の延長されたものではありません。

その目的は相互銀行法第一条において次の如く規定されています。即ち「国民大衆の為に金融円滑を計り貯蓄の増強に資する為」この法律を制定すると、ですから相互銀行の使命は一般消費者や中小商工業者への金融を行い、かつ旧貯蓄銀行の小口預金吸収の機能を併せ営むものなのであります。

相互銀行は、このような使命を達成する為、従来の無尽の近代化された〝相互掛金〟業務と普通銀行の取扱っている預金業務、貸付業務及び為替業務等を全面的に行っているのであります。従って相互銀行は相互掛金業務を行い得るだけ普通銀行に較べて業務分野が広いわけであります。

このように相互銀行は、非常に広範囲の営業分野を持っていますが、その存在理由はあくまでも日本経済において重要な比重を占める中小商工業者への円滑な金融を計るという点にありますからこの目的に反するような行為は法律により固く制限されています。即ち同一人に対する大口貸出の制限（自己資本の十分の一）や、資金の地方還元を計る為の営業区域の制限や、又預金の給付金への流用の制限などであります。又大衆の預貯金を保護するため支払準備率（相互銀行法第十三条定期性預金の百分の十と、定期性以外の預金の百分の三十との合計）が決定されています。ここに相互銀行が国民大衆の金融機関たる所以があるのでありまして、以上のようなはっきりした使命の下に広汎な業務を行い、国民経済の発展に寄与しているのであります。

西日本相互銀行について

以上において相互銀行とはどんなものか大体おわかりのことと思います。次に西日本地区にお住いの皆さんに最も関係深い西日本相互銀行について御説明申上げたいと思います。

当行は太平洋戦争が益々激しさを加えていた昭和十九年十二月、福岡県下の五無尽会社が合併し西日本無尽株式会社として設立されたのがらん觴であります。

爾来、庶民金融機関として無尽契約に基く掛金の受入、給付など中小商工業者に対する事業資金の融通に専念して参ったのであります。

その間、他社を吸収合併するなど、支店網の拡充整備に努め次第に企業規模を拡大すると共に、他方昭和二十一年二月の金融緊急措置令の際には逸早く新円無尽を創案し、画期的発展を以って社礎を盤石に置き、昭和二十四年十月及び翌二十五年四月、看做無尽（相互掛金）の取扱許可を転機として業績の飛躍的発展を遂げたのであります。

斯くて昭和二十六年六月公布された相互銀行法に基いて同年十月無尽会社から相互銀行へ転換し商号を現在のように改めました。この間、相互銀行法に基く営業種目の他、諸金融公庫などの代理業務、日本銀行歳入代理業務、鉄道分任預金取扱など、その公共的使命も拡大され一途順調な歩みを続けております。其の他事務の合理化と資産内容の充実に一段の努力を払いました結果、前期は経常純益金四億八千五百万円という前々期に劣らない好成績をあげており、九州における本店銀行中（普通銀行、相互銀行をくるめて）福岡銀行に次ぐ資金量を擁しているのであります。

昭和三十三年四月末の現況は次の通りでありまして

經常純益金　四億八千五百万円
諸積立金・　二四億八千七百万円（貸倒準備金を含む）
資金量　三八五億一千八百万円
支拂準備　八九億五千三百万円
融資高　三二七億九千三百万円
契約高　四二一億二百万円
從業員　一、二三〇名

営業所は福岡県四十三カ店を中[illegible]、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、山口、広島愛媛の各県に跨り、総数九十三カ店とな[illegible]ります。

尚堅実な経営を誇る当行経営者陣を御紹介致しますと次の通りであります。

取締役社長　東令三郎
専務取締役　森俊雄
常務取締役　石野功寛　堀勇助　石崎従矩
取締役　喜代美一郎　柴田義雄　中村隆
　塚本一郎　松田正喜　岩田龍雄
監査役　梶原時雄　武藤謹之

斯くて当行は東京を基盤とする日本相互銀行に次ぐ全国第二の相互銀行であり、西日本経済界に大きな貢献を為しつつあります。

西日本相互銀行

第二回松原賞小説入選作

難澁

中村節生

省策はいつものところですっかり投げ出したくなるような放埒な気持で和恵のくるのを待ちあぐんでいた。だが彼のできることといったらあいも変らずじっとりと闇が重々しくのしかかってくる大学の構内の、樹木が更に深い闇を襞のようにきわだたせている亀裂にもぐらのように押し込められたまま卵をかかえた鶏のようにそのやりきれない感情を生ぬるく抱きあたためながらうずくまり続けることだけだった。彼はたるんでだらしなくなえた躰を幹になすりつけながら校門のあたりをおどおどと窺った。黒い影が三つほど続き、そのあとの影はつんのめりそうな姿勢で彼に向って真直に踏み入ってきた。

「どうだった」和恵は勢いこんでぶっつけるような激しさで聞いた。省策はそれに答えず、むしろその言葉に覆いかぶさって跳ねまわらないようにいきなり和恵の躰を上から荒々しく抱いた。「そんなにしないで話して」和恵は少しばかり抗いながら彼をあやすように言った。「ぼくにもう一度あのみじめな思いをさせたいのか」省策は小さな抵抗を一挙に押しひしぎ和恵の生毛のようなやわらかい躰を彼の胸の中にまるめ込んだ。俺が若者らしい勇気と力にあふれているのはいつもここまでだけなのだ。これから先は和恵の独壇場なのだ、省策は和恵のふくれあがっていこうとする胸の弾みが細やかな振動を起し初めたのを感じとりながら口惜しそうに思った。彼は最初から手のつけられないほどへたばっていた。綿で幾日も幾日も叩かれ続けたようなけじめのない疲労に骨まで犯されていた。省策の疲労感というものはこの二年という長い時間をかけてずいぶん丹念に飼育されたものだった。彼は大学を就職が決まらないばかりに二年又一年と卒業をのばし今年卒業しなければ退学させられるという破目にまで追いやられていた。そらぞらしい寒さが続いているのに心はだるくなるほどどうっとうしいものを感じる日々だった。困難は彼の血を吸わぶり肉をむさぶって日増しに大きくふくらみレスラーのようにたくましい脂ぎった肢体を彼の前にひけらかして動こうとはし

昨日も彼は高校時代の教師のところへ就職の事を頼みに行ったのだった。鼻のつけ根のあたりがアオグロずんでいかにも狸のような狡猾な感じのするその教師は就職申込受付簿をめくってみせながら「君が高校卒だけの資格で就職する気があるのだったらデパートのボイラー管理の仕事がある」と彼に余裕に　みちた態度でいった。省策にしてみれば彼が大学で文学を専攻したことがこの荒々しい容赦のない力でごった返す社会では屁にもならないことを否応なしに知らされていたから教師のそんな言葉に対してもいくぶん青ざめながら首肯かざるを得なかった。「俺が大学に行くんだったら工学部に行けといったのを素直に　聞いていたら君もこんな捨て値　になることはなかったんだ。芸術だとか美だとか本気でいつまでもぼやいているものだからこんな始末になったんだ」省策が芸術の世界に転がり込んでいこうとしたのをあれほどむきになって止めようとした教師の言葉にしてみればこんな嫌味ももっともだと彼は思った。それにしても人からものを頼まれる人間は憎々しく思うほどの余裕をもち、愛玩物でも眺めるように眼を細めてみせるのは恩恵の価値というものを知り尽しているせいであろうか。「働けてどうにか喰っていけさえすればそれがどんな仕事だろうとちっとも構いはしないんです」省策は目尻をつりあげ絶望的に勇気を駆り立てながら答えた。「今夜早速人事課長の私宅に伺ってみよう。六時ごろ俺は家で待っている」とそれでも教師は親身をこめて答えた。

省策はそれから和恵に会って二千円ほど貰い五百円の果物籠を下げて教師の家へ行った。俺はこんな果物籠をもう二十くらいはぶらさげてうろつきまわっている、あのころの　この俺、和恵と　識り合い、ささやかな喜びが七つ、たわむれのような苦しみが三つくらいある平凡で退屈な手堅い人生を振り捨てて、危険と困難としびれるような快楽をもたらす芸術の世界に雄々しく挑んでいった誇り高い若者の面影から商売人のような愛想面を二束三文で叩き売るこの俺がどうして想像できようか。果物籠は彼には途方もなく重荷なものだった。誇りという大空に向って翔くような輝かしいものが抜け出たあとに屈辱の鉛が押しこめられたような重い重い感じであった。彼はその果物籠を鼻が三角にとがっている二言目には大学とか出世とかを唇がめくれるほど喋り散らす教師の奥さんに「今度は本当に先生に御迷惑をおかけします」ときわめて慇懃に、それでも心を恥らいで雛が生毛をふるわすように小刻にふるわせていいながら差し出した。何年ぶりかでみる奥さんの顔には彼が大学に入学して初めて会ったときに示したはしゃぎの片鱗さえもなく冷やかに置物のように動かないひしこわばった汚さがさらけだされていた。彼は飼犬のように教師のあとについて家を出た。

「何か手土産を持っていった方がよいと思うが」教師は省策に応揚にいった。「千円くらいなら」彼は思いきり恥部を曝けだすかのようにうわずった声で答えた。彼らは一緒に洋品店に入った。教師は千百円もする麻のハンカチを歯刷子でも買うように買ってのけた。省策はそんな豪奢なハンカチがあるなどとは想　像したことすらなかった。彼はあっけにとられて金をとり出しながら、いずれにしてもこの金は和恵が父の目をちょろまかしたろくないわれしかもたない金じゃないか、俺が別にくよくよすることはないといささか投げやりに思った。

人事課長は肩の上にすぐあかくむくんだように肥満した顔がのっており、女の脂肪で内側からぎしぎしと磨き上げたような柔かな光沢を充分にあぶり出している肌を持った生の権化みたいな男だった「やあやあ」とか「ふふふっ」とかやたらに感嘆詞ばかりを口先に膠着させて彼らを十年の知己みたいに過した。教師は省策を紹介しボイラーの管理員に推薦したいといった。課長は気軽に明日十時に人事課まで履歴書と成績証明書を持って出てくるように答えた。

「あらお客様なの」その玲瓏な声と共にあの女が現われたのである、省策に初めて女というものを感じさせた女。彼はどきどき心臓が脈打つのを感じた。決して忘れはしない。彼が芽ぶきのような淡い新鮮な皮膚と澄んだ感覚を持っていた少年時代。息づまるほどの甘美な憂鬱さに胸をときめかし遠くの方をみつめることに決して飽いたことのなかった頃。その無垢に金と銀に彩られた汚辱の豪奢を貼り付けて流星のように彼の視界をかすめ去った女。

ただれるほど焼けつく夏の海であった。太陽も波も緑もめらめらと燃え焔のようにうねっていた。人間たちはうなされ　蟻にたかられた芋虫のように浜辺でのたうっていた。波沫が熱い光線をきらりきらりと鋭くはね返していた。少年の繊細な躰は潮と光にすっかり疲れ脱衣場にしている旅館にひき返してだるくなえた躰を不行儀に畳の上に横たえていた。暑さは執拗に彼に絡み熱いものが彼の内側からそれに応えた。少年はいつともなしにだらけきった眠りに陥入っていった。

黒ぐろとした雲が低く覆っていた。稲妻が暗さを突き破って走った。雲が一段と低くなった。ゆるくだが次第に速く独楽の澄んだときの速さで彼に迫った。「うう」と彼は思わず目を閉じた。だが殺到した雲の感触は柔かで弾力があった。それでいて少しの隙間もなくそうとするぐいぐい締めつける力があった。唇のあたりは蜜で塗ったような粘い重さと甘さがまとわりついた。背を走った感覚があった。どくどくと流れる川の流れに続いて波に浮き漂う特殊な感じが続いた。

少年との合宿にその女がいたのだった。それとなく女が少年をみつめる度に彼はわけのわからない羞恥と怒りのようなもので躰がすくんでいくのを感じた。それ以来少年はある時は憧憬にこがれ、ある時は憎しみを猛々しくかきたててその女のことを憶った。

省策はそこでぷつりと過去を断とうとした。彼が過去に沈んでいけばいくほどそこにいる女はますます大きくなって彼に覆いかぶさり重石みたいにのしかかり彼を不様に圧し潰してしまうだろう。彼は過去という底で踏みつけられた蛙みたいに悲鳴をあげきらずにくたばってしまうことだろう。彼は女の声をおびえる心で無関心に聞こうと努めた。それにしても過去というものは新しい生活がやっとひらけようとするとき、こんな風にいきなり不躾に現われ立ち塞がろうとするものであろうか。

翌日課長が彼の履歴書を見て彼が工業高校を卒業して大学へ行ったことを発見し、それに関することをいやらしくなるほどくどくど訊ねた。何故機械科なんかから文学部へ行ったのか。省策　はこれまで幾度聞かれたかわからないその質問に又しも重々しいやりきれない気持で和恵との　恋愛事件のことをぐどぐど話　さねばならなかった。課長が目尻に淫らなセックスのような皺を寄せるのを見て彼は昨夜課長とあの女との間にどんなことがあったのかを想像できるような気がした。

「若きヴェルテルの悩み」の愛と死。美。人間にとって根源的で本質的なもの。「去るものは去らしめくもりなき銀河」といった句。普遍的な人格性。などということを和恵は口早に息をつまらせながら彼に語った。彼は情熱を熱湯のようにたぎらせながら芸術と愛とに総てをゆだねた。マルテの孤独に清冽な涙を流し、ツラトウストラに駆りたてられ、「合唱」に噛付いて夜中くたばったようになってしまい、そんな手放しの陶酔と精神の危険な刃渡りにうつつを抜かした挙句今彼は一体何を受け取ろうとしているのか。デパートの地階で汗と埃に泥臭くまみれて齷齪きをしようというのだ。それもあの雲行きからすれば怪しいものなのだ。そして和恵と言ったらもう義理固い、破目を外すということを知らない、人生の終りまで設計図を書いている電機技師と結婚してしまっているのだ。小鳥の巣のようないきものの生温い肌でいじらしいほどあたたまっているその家庭。彼らはそこで二匹の蝶のようにひっついたり離れたりしていちゃつきあっているのだ。

それにしても俺はあのときどんなことがあっても断固として男らしく死ぬべきだった。省策はその頃生きることにすっかり疲れてしまっていた。大学に入ってもう五年目になっていた。家からの送金も途絶え彼はなんとしても喰うために働かねばならなかった。激しい労働の日が続き彼は弱り果てた。夜市電の軌道の取り替えをするときなど肩にかかるレールの重みで肋のあたりがぎちぎちと不気味にきしみ、荷を降ろしてもギブスに嵌められたようにそのまま曲り放しでなかなかもとに戻ろうとしなかった。節々は病菌に犯されたように赤黒く腫れ針を刺せばきっと膿血がにじみでそうに感じられた。植木の移植に行き、その家の若い夫婦が小綺麗な仕事衣をまとい甲斐がいしく立ち働きながら「この松、もっと奥の方がいいのじゃないかしら」「その紅葉、ええ丁度そこにして頂戴」とか睦まじく語り合うのを前にして、ああ俺は彼らのちっぽけな、だがはちきれそうな幸福を実現させるために俺の弱々しい力をふりしぼっているんだと涙がにじむほど気持よく思い、三時にだされたぜんざいになにか人間の温いものを感じてひしとこわばった指をぎこちなく伸そうとしてみるのだった。省策は　喰うために働き、寝るた　めに働いた。

その夜彼は和恵からの昔の手紙を読むという女々しいせつない習慣に耽けいっていた。丁度その時あの死が彼を襲ったのである。それは満潮のように充溢した迫り方であった。孤独、疲労、難渋、哀情、そういったものですっかり彼の躰の中が腐り、ふやけてしまっているところにその死は満潮のように　わきあがってきたので　あった。それは胸のあたりがじれったくなるほど痛くて甘い感情であった。俺は今目覚めることのない眠りにつこうとしている、そして全身たっぷりと死という香水につかりきってしまうのだ。俺は一切の制限と約束と困難から解放されて自由と愛を星座ほどあでやかに輝かすことができるのだ。悲惨、汚辱、破滅、それら　現世の醜悪を死は清潔、黄金、羽衣といった天上の浄福にかえてしまうのだ。お父さん、ぼくは今やっと舞台に登場することができるんだ、初めて学芸会の芝居にでたときのように胸をときめかし、そして溌剌と。ぼくはそこで水を撒くように菜の花をふんだんに撒き散らすんだ、白と黄の蝶をシャボン玉のように湧き上がらせ風に浮かせてみよう。お父さん、ぼくは幸福ではちきれそうなんだ。彼の胸に死の感情は綿毛のようなふくらみでもってふくらんでいった。和恵、お前の黒い大きな瞳からこのよじれてしまった俺の死体に涙を落すようなことはするな。ぎこちなくしか生きることのできなかった男をあわれむことをするな。お前はいつかいったことがある「美しい死を死ぬことのできた者が最も美しい人生を生きた人間なのだ」と。俺は今歓喜で　むせび泣いているのだ。和　恵、死とは　幸福では　あるまいか。そこには過失も迷誤も焦躁もない、仏像の持つ安らぎと禁欲的な静謐とけだるい停止が秘められているのではあるまいか。お母さん、お母さんさえ生きていて　くれたらと、ぼくはこ　れまで幾度寂しく思ったことだろう。けれど今やっと一緒になれるんだ。手土産を何一つ持たずに行くのだけれども元気でお母さんの懐に帰っていく息子を温く抱きしめておくれ。そしてもう二度とあんなみじめな寂しい思いをさせないでおくれ。ぼくを愛してくれたたくさんの誠実な人たち。どんなに平凡で退屈な人生であったとしても生きるということが最も尊いことだと改めて決心しておくれ。たとえ人生を誠実に精一杯生き抜いたところで所詮生をたわむれとしかしない死が意地悪く待ち構えていたにしてもひたすら娘や息子や愛くるしい孫たちのことを考えようと努めておくれ。生きている人たち、ぼくはもう死んだ人間なんだ。明日の朝目が覚めるとぼくは　死んで　いるんだ。彼はものうい眠りにふかぶかと陥入った。

彼はそしてまた鮮やかに思い出す。その長い眠りから醒めたときどれほどの羞恥にまみれて和恵を　見つめなければなら　なかったか「わたしがあんたをこんなにしてしまったのね。もうあなたの側を離れない。どんなことがあっても離れない」と泣きじゃくりながら接吻を押しつけてくる和恵に「みっともないことをいうな。ぼくらはもう子供じゃない。たとえ一緒になったとしてもぼくらのできることといったらせいぜい破滅に転落するために力を合わせることぐらいのものだ。ぼくは今お前を愛しているわけじゃない。ぼくが愛しているものはお前の中でもうとっくに深い眠りについている過去のものなのだ」と晴ればれといってのけたあの身の置きどころのない恥らいを思い出す。それ以来和恵は彼に仕える奴隷になった。魂を売った人間は奴隷にしかなれはしないのだ。彼は奴隷の貢物で生活の慌ただしさを消していくことができた。

人事課長に部長に相談してみるからもう一度来てみるようにと言われて彼が夕方人事課に来た時、人事課の職員が、大学卒ということになれば将来の身分に関して紛争が起き厄介なことになる、不安定な性格がみられる、それにデパートであるから人触りが柔かくなくちゃならない、などという理由を上げて希望に応じかねると言った。本当に俺はどうみても人好きのする貌をしていやしない。異様なほどの団子鼻が顔の真中にある。そして俺が精一杯笑顔を作ってみせたところでせいぜい老人が俺の苦衷を分かってくれるくらいのものなのだ。それにしても地階で汗みどろになって齷齪く男にどんな笑顔がいるというのか。俺には昨夜課長とあの女がどんなことを為たか手にとるように分かっているのだ。彼らは俺のことをさんざ話し合った後あのことを微細なまでに思い起し、それを褥にしてやれっぱなしの躰のこさきあいをやってのけたに違いないのだ。彼はやりきれなかった。どこまで落ちていったら支えてくれる足場があるのだろうか。俺は人生を恋人のように愛しているのに人生は俺の見も知らぬ処で呑気に日向ぼっこでもしているのだ。

その時団子鼻がむくむくと大きくなり初めた。彼がうらぶれてとぼとぼとしくじりのみじめな感情に浸ってこんな人生の悲惨について真面目に思い耽っているとき、ふっと団子鼻が目の前に起き上ってき、それを凝視していると笑いたくて笑いたくて仕方がなくなることがあった。彼には団子鼻の人間が背負わなければならない人生の喜劇的な宿命というものが存在するように思われた。漫画や少年活劇に登場してくる赤鼻のブルだとか団子の三助だとかいった連中は呆けていて滑稽　なそしてその中にほ　んの少しばかり哀しさを漂わせている人生の脇役たちなのだ。彼は小さな頃からそんなおどけなくては配役にありつけない淋しい人間たちを愛し、英雄や美女を心から憎んだ。彼がまだ悩みを大切にしていた少年の頃、団子鼻を干物ピンでつまみ、終日鏡の前に坐り続けたことがあった。愛している魂に誓って愛していると切ない愛情を告白しているとき、今この鼻はどんなふうに蠢めいているのだろうかと逡巡のさなかに思って涙をにじませるほど笑いころげて女をびっくりさせたことがあった。俺がこんなに執念ぶかく人生と付合っているのも全くこの鼻のせいなのだ、彼は　鼻をもぎ捨ててしまいたいような衝　動にかられた。たとえ俺の肉体がくたばって腐ったようになったとしてもこの鼻はむくむくと起上り鼻そのものとなって一つの独立した生命を獲得し、チンドン屋のように　鐘と太鼓を賑やかに　囃しながら往来をくねってまわる　ことだろう。そして俺が　その居たたまれないようなみじめな劣等感から脱けでることのできるのは、夜更け人間たちが寝静まったころ「人生って何かを待つことなのね。待っていさえすれば人形や幸福が必ずやってくるのね」とか「何をたべているの洗濯は……そうね、あなたはもう人魚なのね、何もいらないのね、気軽な飛魚なのね、いつもきれいなのね、くらげなのね」あるいは「墓石が生きていて熱い息を吐いているようでしたわ。墓場にも死んだ人間の生の営みがあるのね。陽炎もわたしには何かしらその証しのように見えましたわ。地の底で蒸されて生命がうづいているのね」などといった死んだ恋人を想うあどけない少女たちのせつない思いをぞくぞくするほど胸をときめかしながら書き綴っていくときだけだった。歯のうくような純愛悲恋小説。彼はそっと鼻をつまみあたりに糞尿がまき散らされているかのように顔をしかめた。

そんなことがめまぐるしく省策の頭をかすめていく間に和恵との情事はあっけなく終ってしまっていた。彼は和恵と別れ、虚脱した躰を労る　ようにして　道をゆっくり歩いていった。そして彼がその道を歩いていくとき、虚無の奥底からせっぱつまった自暴な勇気のようなものが湧きよってくるのだった。彼の友人たち、理想とか正義とかを火のように胸の中で燃やしている若者たちはその道をざくざくと小気味のよい足音をたて、歌をひきつるように歌いながらスクラムを組んで行進していったのだった。自由や平和が脅やかされようとするたび、彼ら、民族の良心たちは激しい怒りに身をふるわせながらその道をデモった。省策は組合せた腕を通じて未来というものを感じた。これほどの人間が未来を目指してつめかけていっている。彼らは力尽きて折り重なり、又その上に希望に燃えた者が傷つき倒れかかり、そのようにして彼ら自身の血と泥でまみれた肉体で未来という豊かさで満ち　た塔を築き上げていこうとして　いるのだ。彼は息づいていた。何故ならこの道を歩くとき、彼は多くの人間と肩を並べ手をとりあって歩いていたからである。しかし俺はいつもそんなことを頭が痛くなるほど考え理解し尽しているのに二日とその感情を持ち続けることはできないのだ。そして素直に未来を俺が何故信じることがで　きないかということも俺は知　り抜いている。

その頃彼は勇敢な小さな兵士であった。玉砕ごっこではいつも陣頭に立って敵陣に斬り込んでいく勇士であった。けれどもいきなり死を見てしまったのだ。死とは何かも知ら　ずまのあたり　に見たのだ。敵機の波状攻撃は海岸線に並ぶ彼の故郷の町を猫がざらざらした舌で舐めまわすように執拗に隅々まで襲いかかった。焼けた。豪奢な火祭りを彼は贅沢な気持で見とれていた。だが煙がまだおさまりきらない焼跡で彼は焼けただれて酸っぱい匂いを発して燻すぶっている人間の屍体を見てしまったのだ。それはサイパン島で全員玉砕という報道に胸をときめかして悲しみ、涙流してあこがれ耽けった死の壮烈さとは全然異ったものだった。いやらしく、べとべとしていて、死んでも尚死臭を発して生きている人間たちの間に紛れ込んでいたいという執拗で貪　婪なものであった。そこには血なまぐさくて残酷なもの、壮烈無比なもの、英雄的なものはなにも存在しなかった。きたないもの、セックスのようにひしこわばったもの、濁ったもの、そういった人間の醜悪さが屍体からあぶりでていた。死は容赦なく囲りに堆積した。省策らの肉体は屍臭にむされ、血しぶきうけた壮麗な衣をまとい、どくろを踏んづけてはがりがりと死者の骨が叫びを上げるのに身震いしながら、飢え、餓つえ、這うようにしてみにくく生きのびてきたのであった。死はそれ以来彼らの中で確固たる位置をしめ、ちっとやそっとのことで揺ごうとはしなかった。そして死を待つために生きている病人たちのように彼らは死にすべての愛と滋養物を注ぎ、もうどうにもならないほど愛らしく肥やしてしまったのだ。愛情と贅沢を一杯に妊みこんだ死はもはや醜悪なものではなく、生きることの困難と難渋から解き放し、羽衣の軽快さと自由に人間を導くものとなるのである。そんな人間には建設、希望、未来に対するうしろめたい困惑が生じ、怠惰、怯懦、渋滞に安易に身を任せてしまうようになるものである。

しかし今俺には人生に盲目的に挑みかかっていこうとする無茶なやれっぱなしの勇気が必要なのだ、と省策はその道を歩きながら気ぜわしく思った。その時彼の前方から黒ぐろとした森のようなものが迫ってきた。自由と平和を求めて大学の友人たちが狂ったように走り回ったその道路をそれらの黒いかたまりは総てのものを黙殺して荒々しい唸りをあげて押し寄せてきた。戦車だった。なみなみと重量をたたえて三台の戦車が前進してきた。そしてその後に自衛隊の兵士たちが鉄兜に鉄砲という強固な不格好な様をして途切れることなく続いていた。彼らは喋らず黙々とひた押しに徹夜の行軍を続けているのだ。鯨のビフテキと許り飯で小牛のように脂ぎったこれらの若者たちは恐らくいくら歩き続けてもくたばるということはないだろう。彼らは示された目標に向って容赦なく追っていくためにのみ生きているのだ。省策は自衛大学に入った弟のことを憶った。弟、省策のためにすっかりはたき出してしまった父の許に僅かな給料のうちから仕送りを続けている思いやりの深いけなげな弟。たくましいものを体一杯みなぎらせている奴。お前も今はこの豚みたいな若者たちの群の中にいるのか。お前はわけもわからないもののために人生を棒にふる気でいるのか。「兄さんさえしっかりしていたら」とお前は俺のだらしなさを激しく責めてもいい。けれども俺達がどんなにいじめられて育ってきたか。四十過ぎの人間たちは敗戦によってただ舞台から退いて死んでいきさえすればよかった。三十代の連中は傷ついたという、けれども彼らは傷つくだけの強固な肉体と思想を持っていたのだ。それに比べて俺たちは食べるものなく、生れたときから栄養失調で、ひ弱に捨て子のようにしか育つことができなかったのだ。あの暗い時代を支配し、押し流していったなにか巨大な狂暴なものは俺達に混乱、荒廃、貧窮、飢餓といったものしか与えはしなかった。傷つく肉体も粉灰微塵に砕ける思想も持たず。ずるずるべったりにこれまで生きてきたのだ。だからといって鯨のビフテキに浅ましくとびついていいものだろうか。そんな困難を背負わされた俺たちだからこそ魂だとか精神だとか愛だとかそんな最も人間的なものを毛むしられた鶏のように鳥肌たててふるえながらもいびつに頑なに守り続けるべきではないだろうか。「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」というのはもう信じられない洒落にしか過ぎない。真夜中目覚めている精神というものは片端な肉体にしか宿らぬ。これほどの脅迫が鳥の群みたいに襲いかかってくる現在にレスラーみたいな裕々とした肉体を欲する者は精神を放棄せねばならぬ俺がこんなことをお前に意地になって言うのをただ笑ってすましてくれるな。生活することがどんなに難しいことであるか俺にもやっと分かりかけている。だから尚一層激しくお前に言いたいのだ。躰の奥底のあたりに屈辱にまみれた怒りのようなものがふるえるのを彼は感じた。もしお前がこの行列の中に入っているのを見つけたら俺はお前を外へひきずり出し、足腰のたたないほどぶちのめすだろう。お前の頑強な躰に俺のこの痩せ細った腕はにべなくへし折れてしまうかも知れない。だからといってお前たちをこんな風に堂々とのさばらしておく理由はちょっともないのだ。省策は街樹の陰に立ちすくんだまま熱に犯されたようにふるえ行軍を凝視し続けていた。その彼の側を風呂帰りらしい髪を乱した学生が下駄を自暴に踏みならしながら通り過ぎていった。その学生は高く立て赤旗をその陰に死を誓うという歌を口笛で強く吹いていた。省策はその学生の心が手にとるように分かった。それにしてもなんていじらしい抵抗なのであろうか。この歌心をこめて応じてくれる人間はこの行列の中に一体幾何人いるだろうか。行軍は相変らず黙々と重々しく続いていた。口笛は空々しく消えていった。人間たちはこんなに切り離されてしまっているのだろうか、省策はこみあげてくる怒を鎮めるためにそんな事を筋道たてて考えようとした。

それからしばらく後省策は放便のために公衆便所に入った。照明のない暗いくさい臭が充満している場所に屈みこんで放便に熱中しようとしていた。しかし熱っぽいものは彼の躰から離れていこうとはしなかった。女、失業、死、鼻、芸術それらのもろもろの悲惨さは彼の内部をひき裂き、ぶつぶつと切れた糸みたいにどこにも連がっていこうとはせず、一つ一つが勝手な叫びをあげていた。俺という一個の独立した人間、まぎれもない俺という個性、人格、それはこれらのどこに在るのだろう、彼はそんなつきつめた高尚なことについて　考え続けていた。彼が　ポケットから塵紙を取り出そうとしたときハンカチが手に触れた。彼はそのハンカチを取り出し、ひどく贅沢な気持で尻の穴をぬぐった。そしてこの汚れたハンカチがたとえあの人事課長のところへ手土産に持っていった千百円の麻のハンカチであったとしても俺は今だったら平気で尻をぬぐい思いきりよく便壷の中に捨ててしまうだろう。彼は目に涙をにじませながら冷静にそう思おうとした。けれども彼の内部の奥底に彼をこれほどまでにひしぎ、痛めつけ、押し潰そうとするなにか狂暴なものに対する復讐の情念が焼屍体からくすぶる執念の煙のようにうごめき初めていた。今俺にはあの果物籠を三十くらい束にしてひっからっていく無謀な自暴な力がある。彼は尻をぬぐったハンカチを固く握りしめたまま冷水を浴びたようにぶるぶると震えた。

◇

暖冷房完備
博多帝国ホテル
呉服町交叉点　電③6131—6

株式会社　竹中工務店
九州支店

明治製菓戸畑工場
工場長　鈴木美都夫

葉山帽子店

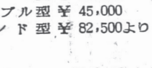
九州電力株式会社
福岡市渡辺通二丁目
電話②三〇三一

古河の317D
誰でも使えるさく岩機
レッグハンマー

ビットとロッドが傷まないさく岩機が出来ました。

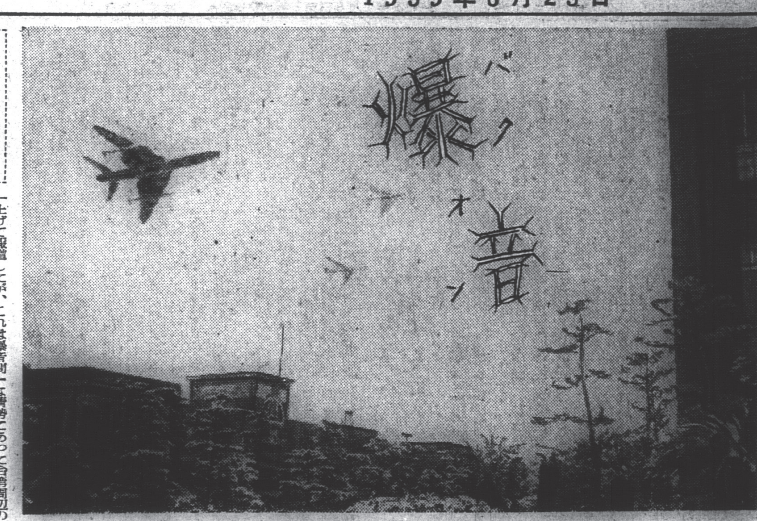
軽打撃、ビットもロッドも傷みません。
高打数、すばらしい性能です。
強回転、どんな岩でも吹き止りません。
古河鉱業足尾製作所
福岡事務所　福岡市呉服町39　電話（4）6222

For better Typing
Olympia



西ドイツ製
ベビー型 ¥ 29,500
ポータブル型 ¥ 45,000
スタンド型 ¥ 82,500より
オリンピアは西ドイツ最大最も近代的な事務機械メーカーで現在主としてタイプライター、加算機を大量生産して居りその優れた材質と技術をもって、世界に有名であります。
英文、獨佛、共通、カナモジ、カナコンビ、各種あります
安心てきる安い価格と充実したサービス
九州地區總代理店
株式会社　ジンムセールス
本　社　福岡市薬研町九　TEL④2595—6 ⑤0143
小倉営業所　小倉市大阪町七丁目朝銀ビル　TEL⑤2474

十条製紙株式会社小倉工場
福岡県小倉市
□□篠崎五四〇番地



三たび「爆音問題」を採り上げる

九大は上昇路直下

軽視できぬ疲労度

「モシモシ」という声に交って、ガーという音が入る。続いて「相済みません、今ジェット機が通っていますので…」相手の電話口からの声がする。学外から九大の何処かへ電話をかけたことがある人なら、誰もが一度は経験したことだろう。朝鮮動乱終局後、一時基地側から自主的な申込みがあって、離着陸の際は、出来る限り九大の上空を飛行することは避けるということに落着いていたため、爆音ノイローゼも少しは緩和されたかと思っていたのも束の間、最近になって、また以前同様に臆面もなく、九大上空を、しかも低空を飛び始めた。ジェット機が通過する際の、あの空気をつん裂くような爆音による被害に、単にその一〇〇フォーンにも達する音のため講義が中断されるだけでなく、理工科系のいくつかの学科の場合には、微細な測定などに大きな障害となっている。

◇

◇

（弗）

工学部本館の屋上に登ってみると板付のメイン滑走路が九大の方へ一直線に延びているのが一目で見てとれる。その間の距離は約三・四吉米。離陸したジェット機はまだ十分上昇しきらないまま、低空を九大をかすめて飛ぶ。着陸する際にも低い角度で、上空を飛ぶ。キューンと空気を切る音が次第に近づいてくると、講義をする声がフッと止んで、ノートをとっていた頭が一斉に上る。続いて文字通り腹の底まで浸み通るガーという轟音を立てながらジェット機が頭の上を通りすぎる。その間は、もちろん講義はストップ。教壇の上ではイライラしながら天井の方を見上げたり、窓の外に目をやったり。教室の中は一様にタメ息がもれ、あちこちでお互いにブツクサいっているのだが、その声が聞きとれない。こんな状態も毎日続くと、中には「もう慣れてしまいましたよ」という人もいる。しかし爆音によって知らぬ間にどれだけ神経をすり減らされているかということは、九大では精神病（主に神経衰弱）が結核に次ぐ程のパーセンテージを示していることが如実に物語っている。

昭和三十年度の側定では九大の爆音は八〇から一三〇フォーンと言われる。朝鮮動乱の終り頃の当時に比べれば、今日では、いくらかそれが緩和されたと考えられるが実際問題として、講義、実験、研究などが妨害されるという点では以前同様であろう。

最近本紙が箱崎キャンパスの数ケ所で測った最高爆音値は、一〇二フォーン、ふつう、防音設備のない室ではジェット機の場合七〇フォーンは免れない。因みに例をひくと、五〇人程度収容出来る教室で、先生がかなり大きな声で話しても聞きとれないのが、七五フォーンであるから、とくに広い教室などでは、七〇フォーンという状態で講義をすることはまず不可能であろう。

爆音の被害は単に音の被害だけに止まらない

一口に爆音による被害といっても、二つの面がある。つまり音そのものの被害と空気が振動するために起る被害とである。騒音そのものの被害というのは、九大生に限らず、少くとも板付付近に住む人なら誰もが嫌というほど験っているし、九大生ならば、講義に出れば嫌応なしに直接の被害者になるもので改めていうまでもないが、今一つの、空気の振動による被害は、理科系の一部の研究に携わる者でなければ理解し難い問題であろう。二、三例を引いてみよう。理学部の動物生理学の教室では、電子顕微鏡にかける薄い切片を作らなければならない。この切片を作るため、資料をウルトラマイクロトームという機械にかけて二〇〇オングストローム程度に何枚もうすく切るのだが、その際たまたまジェット機が通過すると、その衝撃で「ミクロン」になったり、五〇〇オングストロームになったりする。これも理学部の例だが、ガリバーメーターと呼ばれる微弱電流、電圧を測定する機械である。この計器を使う場合には、足音、電車、汽車等の振動を避けるため「除震架台」の上に計器をのせて測定を完全なものにする。しかし、ジェット機による振動の場合は直接計器に振動を与えるので防ぎようがないし、「除震架台」を用いることによって、かえって振動が強められる結果になる。これは被害の中の少数例にすぎない。医学部、農学部の動物実験、ことに医学部精神科などの臨床実験脳波測定などに及ぼす影響は大きい。

心理的影響、ことに目にも見えず自覚することもないような疲労などの点では、精密な測定はむずかしいが、前に例をあげた精神系統の疾患がかなり高いパーセンテージを示していることからもその被害は伺われる。

爆音問題の解決は基地の撤退なくしてはありえない

学外に目を向けてみよう。板付基地からの北側上昇路の真下にある二股瀬の場合、板付はわずか一吉のところにあり、離陸するジェット機は頭上三〇米のところを通過する。ここでは過去において十三回の航空事故が発生し、一一人の犠牲者を出した。農家の主婦が不時着したジェット機の下敷になって即死した事件は、また我々の記憶に新しいところだ。夜昼の別なく爆音に悩まされる二股瀬や基地周辺の部落の人たちに対しては事後の補償があるだけで、生命さえ保障されていない。

今年の一月下旬のラジオニュースによれば、大阪市の騒音防止の徹底的な成果に対して、アメリカ某市の騒音防止協会から感謝状が送られたという。連日ジェット機の爆音下におかれている我々としてはチョット理解に苦しむことである。騒音防止条例によって、多少とも静けさをとりもどした福岡にも空中から七〇フォーン以上の爆音をばらまく板付基地に対して、アメリカの騒音防止協会はどんな賞状を送るというのか。

F一〇〇持込反対運動以後、九大では基地に積極的に反対する動きが影をひそめて、連日の爆音に対しても、半ばあきらめ切った空気が生まれているが、最近の爆音の激化は運動の後ずさりに呼応しているようにさえ思われる。全学がさらに全福岡が被害者であるという共通の大きな地盤の上に立って根強く基地に反対する運動を続けて行かぬ限り学内の爆音問題は解消しないだろう。我々が選択するのは衛生学的な障害を無視することでも爆音を我慢することでもない。我々の運動は基地自体を撤退させることに、その目標を置かねばならない。反対運動が、基地移転や補償金を獲得するような運動に止まっていては爆音はなくならない。基地移転は他の土地に同じ被害を押しつけるにすぎないからだ。安保条約は改定交渉を終り今年来の批准を待つばかりのところまできている。条約批准がされれば基地は一段と強化され、爆音はますますはげしく、断ち切りがたいものになってしまう。そしてやがて我々が自衛隊員の乗るジェット機の爆音に悩まされる時がこないという保障は何もない。

九大における爆音に対する運動は十年を数える

九大で爆音の問題が表立って取り上げられたのは五一年にさかのぼる。そして、この時から大学側が文部省に対して、この問題に関する働きかけを開始した。朝鮮動乱が勃発したのが五〇年、丁度動乱の真ッ最中で、くる日もくる日も数分の間隔で離着陸するジェット機の翼下にあって、九大の各教室は、爆音の被害の大きさを身にしみて痛感し、ようやくこの問題を何とかして解決しなければという気運が学園に高まってきた。

当時、九大新聞でも、この動きに呼応して、初めて爆音問題を取り上げて報道したが、これは爆音問題をとり上げたものとしては、全国ではじめてのものとなった。

五一年からの運動に続き、五三年の暮になって学校側はこの問題に更に一歩を踏み出し、田中吉郎教授らを中心に学部長、専門家からなる防音対策委員会を結成し、学内の諸施設に防音設備を備えるため、予算請求を行なった。

一方、五二年の暮に市議会は板付基地に撤退を満場一致で決議した。学友会では労働会館で板付基地取除懇談会を開き、県総評、県青年婦人会議、九大教職組、基地周辺部落代表らを招いて、市議会の決議を支持するとともに、周辺部落の実情調査団を組織し、調査に乗り出した。

朝鮮動乱は五五年に終結し、不穏な情勢にあった台湾周辺の危機も一時下火になったが、米軍は板付からの日航機締出しを図ろうとした。民間では商工会議所を中心に発足した板付基地移転促進委員会が被害に対する補償等の問題で実情調査などを続けてきたが、学内では五七年のF一〇〇持込み反対運動を最後に、その後は板付基地問題に対する注意が、他の問題の方へそらされてしまったようだ。

防音設備はあっても換気装置がなければ用をなさない

九大では現在農学部に七室（四〇五名）法、文、経に一〇室（八七一）の防音教室があり、工学部本館裏に、近く六教室を建てる工事が始まることになっているし、既存の建物のうち、講義室、会議室研究室、病院の診察室、外来診察室などの大部分が防音設備をもっている。というと授業などに関する限りでは、先ずよさそうに思われる。しかし、新築教室の場合はともかくも、既存の建築にあとから防音設備を施したものは、あまり効果がない。その換気装置の設備がないため、部屋を閉め切れば密室同様で衛生上とくに悪い。また実際問題として、日中暑いさ中に一〇〇人近くも入った教室で密閉して講義をすることは土台無理な話である。

従って防音装置の有無は目下のところ問題にならず、爆音は容赦なく飛び込んでくる。講義は中断され、焦々した時間を過さねばならぬ。教授の研究室にも同じように防音設備を施してあるが、不自由を訴える声が高い。換気装置のない防音教室に関する障害については、医学部衛生学教室が箕松小学校の防音教室について行ったデータにもマイナスの面がはっきり出ており、現在のところ、我々は衛生学上の障害を無視するか、あるいは爆音を我慢するか、どちらにすかの選択を迫られている。

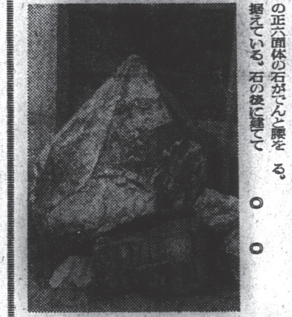
二十六日から全学新大会

六月二十六日から四日間、全学新大会が東京で開かれる。全学連十四回大会では階級的革命を可能として極左綱領を確認したが、全国学生新聞編集者の集りである全学新では、昨年この極左路線に反対の態度を取っており、全学連の決定をいかに受けとめるかが今度の重要な議題になるもよう。

松原風土記（2）

この水晶、日本一

―地質學教室―



どこの学校でもそうだが、日本に一つしかない、世界的にも稀なといった類のものが、よく探せば大抵二つか三つぐらいはあるものである。そしてそういったものが学園に学ぶ者に愛校心と学校に対する誇りを持たしめる役割を果たしているものだが、ここに紹介するのは工学部御自慢の一つである。地質学教室の正面入口の右手に、全くこういっては水晶の寄贈者に申し訳ないんだが見栄えのしない薄茶色の一抱えぐらいの正六面体の石がでんと腰を据えている。石の後に建ててある立札によれば重量約一瓲と但書がある。素人眼にはこのような石を観ても……というところだが色もややあせた「日本一の大水晶」という経歴を見るとそこは人間の弱みで、思わず次の説明書を読みたくなる。生れは島根県美濃郡真砂村馬谷ということであるから、この辺に旅行する機会でもあれば宝探しの土地案内にもなろうというものである。陽の目をみることになったのは昭和十七年のことだが島根県益田市の佐々木氏より寄贈され以来、地質学教室の入口でずっと九大の歩みを静かに眺めている。

○

○

沖縄における法体系

全てを規制する米国法令

制定にも高等弁務官が介入

―赤嶺義信―

琉球列島は、終戦以来、国際法上前例のない特殊の地位にあるといわれ、琉球列島の統治組織も、米本国政府・琉球列島民政府・琉球政府などが存在し、その関係が複雑になっているので、それにつれて、琉球列島の法の形式もかなり複雑になっている。

ところで、琉球列島に適用される米本国法令は別として、これを大別して、民政府法令、琉球政府法令、旧群島政府法令及び日本旧法の四つに分けることができるので、そのそれぞれについて、簡単な解説をこころみることにする。

一、民政府法令

琉球列島民政府が法令を制定する権限は、一九五七年六月五日、アイゼンハウワー大統領によって発せられた、琉球列島の管理に関する行政命令第一〇七一三号第一一節の規定するところであるが、これに基いて、民政府が現実に制定・公布している法規の形式としては、通常、布告、布令及び指令の三種が挙げなれる。しかし、このほかに、民政府裁判所がその訴訟手続について定める民政府裁判所規則も、民政府法令の一形式として挙げなくてはならない。

「布告」（PROCLAMATION）は、高等弁務官が自ら署名・公布する例になっており、琉球住民に対して、直接、拘束力をもつものである。布告と布令の所管事項の区別は、それほど明瞭ではないが、布告は、布令に比べて、より重要かつ基本的な事項をその内容としている。布告は、民政府法令の中で、最強の形式的効力を有するものであるから、布告を改廃し得るのは、後に制定される布告か、またはその上級法たる米本国法に限られる。

「布令」（ORDINANCE）は、「高等弁務官に代り首席民政官」が発布する例になっているが、これは、民政府が新たな法規範を定立する場合に用いる、もっとも基本的、原型的な法形式である。布令は、諸機関の創設及び権限の付与・刑罰規定の制定・税法の制定・現行制定法の改廃など、本来、立法的権能を必要とする事項について規定するものである。布令の形式的効力は布告のそれに次ぐ。

「指令」（DIRECTIVE）は、布令と同様「高等弁務官に代って首席民政官」が発布する例になっている。指令の宛名は、琉球政府行政主席となっているが、指令が政府機関のみならず、進んで一般私人までをその対象として規定していることを見逃してはならない。指令は、民政府が行政機関として定立する法規範であり、それは概して、民政府が立法機関として定立した上級法規範たる布告・布令を補充し、執行するために必要な具体的定めをなすものといえる。

「民政府裁判所規則」は、民政府裁判所が訴訟手続などについて定めるもので、かかる規則も、民政府裁判所の裁判権の下におかれている琉球住民にとっては、重要な法規範というべきものである。

民政府が、琉球住民の権利・義務に関して新たな定めをなす場合、即ち法規を定立する場合は、必ず上述の法形式の一によらなければならないのであって、覚書・書簡などの文書形式によることを得ないのである。

民政府法令が、琉球列島における法令の中で、最強の形式的効力を有しているのは、それが、琉球列島統治の権能を持つ米国の、現地における施設担当機関たる民政府の作品だからである。かかる民政府法令といえども、琉球列島統治に関し発せられる上級法たる米本国法令には、低触することを得ない。

民政府法令は英文が正文である。即ち、民政府法令の英語原文とその翻訳和文との間に矛盾を生じた場合は、英語原文を以て本体とする。

二、琉球政府法令

琉球政府法令とは、琉球政府の諸機関によって定立される法令のことであって、現実に制定・公布されている法規の形式としては、立法・立法院規則・琉球民裁判所規則・行政主席規則などが挙げられる。

「立法」とは、大統領行政命令第九節に定める手続に従って、立法院が制定する法形式をいう。立法成立のためには、立法院の可決のほかに、さらに他の機関の意思を必要とする。即ち、立法院で可決された立法案は、行政主席のもとに送られ、その署名を得て立法となる。主席が承認しないときは立法院に返送するのであるが、これを立法院が再可決した場合は、立法の成否が高等弁務官の決定に委ねられる。琉球政府の立法権は立法院に属するのであるから、琉球政府においては、実質的意味の立法は「立法院」でなされるのが、大統領行政命令の示す原則である。従って、立法が、琉球政府法令において、最上の地位を占めることはいうまでもない。

「立法院規則」は、大統領行政命令第七節の規定に基いて、立法院がその議事規則について自ら定めるものである。

「琉球民裁判所規則」は、琉球民裁判所制（米国民政府布告第一二号）第五条第二項本文の規定に基いて、琉球民裁判所が訴訟手続について定めるものである。

「行政主席規則」ほ琉球政府章典（米国民政府布令第六八号）第一四条の規定に基いて、行政主席が定めるものである。

ところで、琉球政府の設立（米国民政府布告第一三号）第二条の規定によれば「琉球政府は、琉球における政治の全権限を行うことができる。但し、琉球列島米国民政府の布告、布令及び指令に従う」ものとされているので、これを立法権についていえば、琉球政府諸機関の定立する琉球政府法令は、民政府法令に抵触しない限りにおいて、その効力を認められることになる。

琉球政府法令は、和文が正文である。また、見逃してならないのは琉球政府法令の制定の前後の過程においてなされる民政府の関与乃至介入である。即ち、大統領行政命令第一一節が規定するように、高等弁務官は、安全や公益上の考慮から、琉球政府法令案を拒否し、または、規定後のこれら法令を無効にすることができるのである。

三、舊群島政府法令

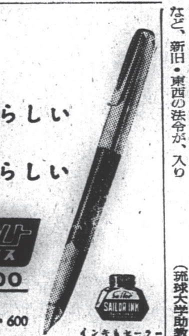
一九五〇年八月四日付、群島組織法（米国軍政府布令第二二号）に基いて、同年十一月に、沖縄・宮古・八重山・大島の四群島に、それぞれ住民自治機構として、群島政府が発足したのであるが、この群島政府が、その管轄権内の事項について制定した法令である。この群島政府は、一九五二年三月三十一日付で廃止されたが、すでに制定された群島政府法令は、民政府法令及び琉球政府法令によって改廃されない限り、効力を持続するものとされた。旧群島政府法令のうち主要なる法形式は、群島議会によって制定された群島条例である。

四、日本舊法

米軍の占領開始当時、即ち一九四五年四月一日に琉球列島に行われていた日本法令は、その後、民政府、琉球政府およびそれらの前身たる機関の制定する法令によって、形式的または実質的に改廃されたものは別として、その他は、琉球列島の法規として継承せられたまま現在に至っている。占領当時、琉球列島において行なわれていた日本法令のうち、現に効力を有するものを、日本旧法と呼んでいるわけである。この日本旧法には、法律・勅令・省令・沖縄県令など諸種の形式が含まれている。

以上述べたように、琉球列島においては、琉球列島に適用される米本国法令・民政府法令・琉球政府法令・旧群島政府法令・日本旧法など、新旧・東西の法令が、入り乱れ、相錯綜し、社会生活においてその基準たる法規を発見するのに甚だしく困難を感ずる現状である。また、現在においても、法令は、主として民政府及び琉球政府の両者から二元的に発せられて、調和に欠ける憾みがあり、為に朝令暮改の感を繰返している現状でもある。かかる状態を改めるため琉球政府はこの二年来、法令の整備を重要政策の筆頭に掲げているが、法令の制定・改廃には、法律はもち論、各分野における高度の専門的知識を必要とし、かつ、民政府法令との調整をも必要としているところから、琉球政府の努力にかかわらず、その事業に遅々として進まず、難渋を極めている。

（琉球大学助教授）


Sailor
見るからに
すばらしい
書くとなお
すばらしい
セーラー ロイヤル デラックス
¥3000・2000
ジュニアー ¥1500・1000・600
インキもセーラー

住友石炭鉱業
取締役社長
石松正鐵
本社
東京・丸ノ内
永楽ビル

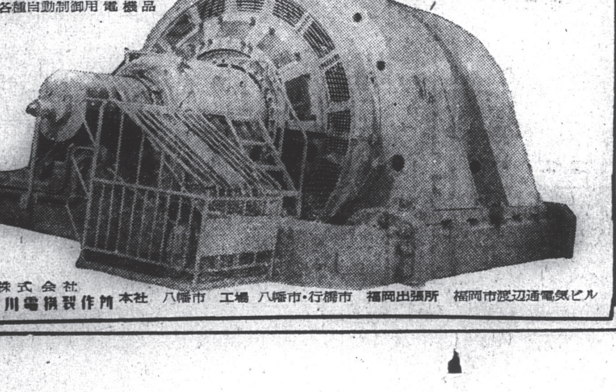
書斎にいつも一本
ご用意下さい
グラス一杯で疲れもほぐれます
サントリー姉妹品
トリスウイスキー
徳用大瓶 330円
ポケット瓶 120円
洋酒の寿屋

郷土の銀行
福岡銀行
本店・川端新町

明るい窓口
三井銀行
福岡支店・土居町
天神町支店・天神町

創立
35周年を迎えました
皆様のお愛顧にお礼申し上げます
福岡相互銀行

うえて育てる！
安田の
貸付信託
1口1万円・元金保証
予想配当率5年もの年7分3厘
金銭信託
5千円以上
予定配当率5年以上年7分1厘
安田信託銀行 福岡支店
福岡市天神町12 電話④2331―4


重電機界に特異の技術を誇る
主要製品
誘導電動機
同期電動機および発電機
直流電動機および発電機
整流子原動機
制御器および制御装置
配電盤および配電箱
各種自動制御用電機品
安川電機
株式会社 安川電機製作所 本社 八幡市 工場 八幡市・行橋市 福岡出張所 福岡市渡辺通電気ビル

光をあびて……
ハイキング
三沢ピクニックセンター
香椎花園
津屋崎
志賀島めぐり
筑紫耶馬溪
野河内
耳納連峰
船小屋
西日本鉄道

美しい塗装に
画期的塗装用鋼板
ボンデ鋼板
☆ 仕上は美しく、ぬりがはげない。
☆ 加工がよくきき、ボンデの効果が変らない。
☆ 保管中、加工中にさびることがない。
八幡製鐵株式会社 八幡製鐵所
八幡市大字枝光八一四ノ一

推薦に宮内浩氏

九大をうつす会　入賞きまる

九大新聞主催の撮影会「第一回九大をうつす会」は、五月二十二日正午から、モデル三名が参加して本学箱崎キャンパスで開かれた。当日はうす曇りの天候だったが、撮影者はのべ五十名、新緑につつまれた学内を三々五々とスケッチした。当日の作品は六月十五日の締切日までに合計五二点があつまり、富士フィルム技術部に審査を依頼した結果、十九日つぎの通り入賞がきまった。

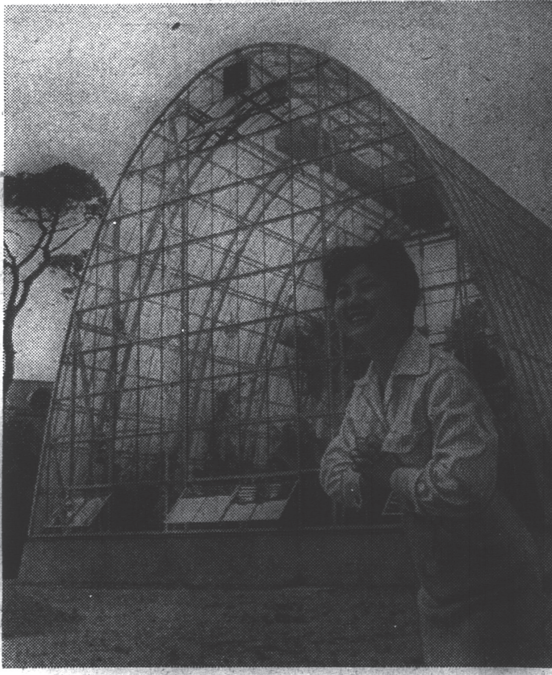
推薦（三脚及び博多人形）
「無題」　宮内　浩

特選（セナップメーター及び博多人形）
「木陰で」　片渕武昭
「撮影會スケッチ」　簗瀬潮音

準特選（オペラグラス及び博多人形）
「フレーム」　中　雄一
「おはなし」　森永　悟
「下校1」　平　忠則

入選（アルバムおよび博多人形）
「ポートレート」　宮内富士人
「或るポーズ」　橋口　弘丸
「土曜日の午後」　下平　剛吉
「習作1」　原田　能忠
「放課後のみち」　狩野　素朗
「花」　平川　亮一
「工学部裏」　中田　励二
「花の中で」　森山　健吉
「屋上にて」　吉沢　孝

講評　当間敏夫氏・全体として何を表現しようとしているのか、作者の意図が十分に分らない傾向がある。もっと作画の主題をしっかりつかむことが必要だ。技術的にみれば構図に中途半端なものが多く、またハーフトーンの飛んだものも目立った。推薦作は女性の若さを中心に動きもあり、ふんいきもよく出ているのでこれをとった。


推薦「無題」宮内浩　ニコンS2　ニッコール50ミリF3・5　F8　250分ノ1　Y2　ネオパンSS　ミクロファイン　ベロナF3　コレクトール

期待以上の成果

学生の参加増えた学園祭

教養部学園祭は、五月二十二、二十三、二十四日の三日間、六本松の教養部で行われた。

二十二日の前夜祭につづいて幕を開けた文化祭は二十三日、二十四日の両日、音楽、演劇、映画会、講演会、討論会、展示会等多彩な行事が校内各所で開かれた。

音楽会は各サークル、各クラスの積極的な参加で例年にない盛んなものとなった。中でも教養部音楽部の歌劇「鷹の泉」は不便な舞台装置にもかかわらず意欲的な熱演で成功だった。また講演会は、社研、政治研、女子学生の会、それに昨年の秋にできた文芸同好会等のサークルが各々向坂教授、島崎助教授、川口助教授、石中教授、徳本講師等の講師を招いて開き、いずれも熱心な聴講者が集まった。また実行委員会が九州朝日放送の後援で催した「現在の学生は学園生活をいかに過しているか」と題する放送討論会（司会、佐々木一義教授）は人気を呼び、多数出席した学生の中から活発な意見が交換された。なおこの録音はKBCから両日にわたって放送された。

異色は、イラクからの留学生L・サマライ君で、ぜひこの機会を利用して日本の人にイラクを理解してもらおうと新館一〇七番教室全部をつかってイラクの新聞、雑誌写真を展示したり図表を使ってイラクを説明するのに一生懸命だったが、当日多くの参観者を迎えた。

今年は三日間とも天候にめぐまれず、昨年ほどの盛況にはいたらなかったが、例年になく学生の積極的な参加があり、本当に我々の学園祭だという事が認識されて来たように思われる。だが参観者がほとんど学生で占められているのはやはり考えるべきであろう。予算のことや準備期間が短かったこともあろうが、今後地域社会に対する盛んな情宣活動が望まれる。

戦後の歌ごえ運動

民主化の発展と共に

今井克典

戦後の音楽運動、とくに「うたごえ」や「労音」等を中心にした、大衆的なしかも組織的な発展は、諸外国に例をみない特異な存在でこれからの日本における音楽文化の発展の方向に力強い指針を示している。

それは一見すると、ヨーロッパの音楽の発展過程—社会的な発展段階に従って音楽そのものも必然的に一般大衆のものとなったこと—と同じような発展過程とみられがちだが、戦後の発展は非常に意識的なそして積極的な努力がとくに労働者階級の中で或はその要求に基礎をおいた専門家の中でなされたところに大きな特徴がある。

明治維新後、先進資本主義諸国からの立ち遅れをとりもどそうと必死になっていた政府は、法令で、学校教育の中に音楽（唱歌）を取り入れたが、この唱歌を中心にした学校教育は明治の後期から大正、昭和のはじめにかけて、数々のすぐれた歌曲や作曲家を生み出す条件を作ったし、一方では卑俗な流行歌をはんらんさせる条件をも作り出したといえる。しかしこの時期の音楽が国民一般の生活に根ざしていたとは思えないし、学校での音楽教育も小学校と中学二年くらいまで、それに男の子で音楽が好きだといえば柔弱だとさげすまれていたのが一般的な風潮だったといってよい。

大衆的な音楽運動は、全くといってよい程なかったし、器楽の演奏や、レコードによる音楽の鑑賞なども、ごく限られた階層の人々によって行われていたといってもよく、一般勤労者階級には殆んど無縁のものとして存在していた。それで日本での音楽文化は限られた層を基盤に、学校教育を中心にしながらかなりの速度で発展して来たことは否定出来ないであろう。

一方流行歌は日本人特有の封建性（浪曲調）が西洋音楽の影響を受けながら、しかもそのときどきの社会の明暗を反映しつつ昭和10年頃まで急速に巷にはんらんして行きファシズムの台頭とともに軍歌と戦意昂揚と忠君愛国の歌にとってかわることになった。中国に対する侵略戦争が泥沼に入りこみ、新たに東南アジアに侵略を開始した昭和16年には、もう殆んど音楽会は開かれず、たまに開かれてもゲートルを巻き、モンペをはいた交響楽団の演奏であり、その演奏会すらも警察や憲兵が目を光らせる状態が生れて来る。全くこっけいなことだが、この時代はイギリスやフランスの音楽は敵性文化だということで演奏も放送も出来ない。もってるレコードは焼き捨てねばならないというようなことが平気でいわれもしたし、ローゼンシュトックやクロイツァー等の優秀な人々がただ単にユダ人であるというだけの理由で追放されたりしていることも今では考えられないことだといってよいだろう。とにかく戦意昂揚のうた以外は一切の音楽活動が停止されていたわけである。

戦後、焼野原の中で国民は貧困のどん底にあったとはいえ息のつまるようなファシズムからの政治的精神的な解放は、音楽に対する要求、或は演奏活動を非常に活発にして行った。

終戦によってひき起された経済的政治的な変化は文化面についても大きな影響を与えたが、特に一般勤労者の文化活動は戦後の労働運動の発展と密接な関係の中で発展してきたことを考えねばならない。

終戦直後の圧倒的な植民地文化のハンランに対して、健康な国民文化を育てる運動が職場の中から、専門家の中から大衆を固く統合した形で展開されて来た。職場を明るくし、生活を明るくする「うたごえ」運動が労働運動や民主化運動とともに発展し今まで勤労者には縁のないものとされていた古典的な文化遺産を、労働者階級を中心にした国民の力で、継承し発展させるという運動が専門家を含めてはじめられるようになった。

戦前と違って特徴的なことは、音楽、演劇等で運動としてきわめて組織的に、しかも勤労者の自主的な組織として発展してきたこと、専門家がこの運動に協力し、労働者階級の要求に基礎において創作をはじめたことなどで、国民文化会議が労働組合や色々のサークルの人に加えて各分野の専門家で組織されたことは十分な活動をやってはいないが日本の文化運動の発展を組織的に保障しているといってもよいのではないかと思われる。

この中でも「良い音楽を安く、企画、運営は会員の手で」というスローガンで昭和24年に大阪で組織された「労音」は勤労者の自主的な運動として全国各地に広がり現在では六三都市三五万の大組織となって、日本の音楽界の在り方を根本的に変えてしまったし、これからの方向に決定的な影響を与えているといってもよいだろう。

九州だけでもすでに十四の都市に労音が出来小さな都市にもその運動は波及している。ところが労音の力が大きくなるにつれてこれをおさえつけようとする動きも次第に活発になってきている。その一つに「全文連」といわれる芸能文化センターを中心とする全国組織が挙げられるが、福岡なんかでもあるようにゴールデンゲイトやニューヨークリツルオーケストラを派遣してもらうことで頽勢を挽回しようとしてる。しかし歴史的な必然性もあることながら勤労者学生、市民がこの運動に、積極的に参加して行くことで労音の力は一層強くなるであろうし「うたごえ」の運動とともに、我々の感情や生活を歌いあげ、やがては国民音楽の創造へと発展して行くであろう。**学音事務局長**（投稿）

文芸同好会と「壇」

学内誌評①

昨年六月発足した教養部の文芸同好会が、この五月、ようやくにして機関誌を刊行した。「壇」＝創刊号＝がそれである。誌名の風変りな響きは、平凡に流れまいとする会員の意図であろうか、抽象画をあしらった淡白な表紙とマッチして、なかなかセンスのある体裁となっているし、ガリ版刷りではあるが、印刷も非常に美しい。これを見ると機械的な活字印刷より、文芸誌などガリ版印刷の方が数等上だという気がする。

さて、作品だが、百ページを超える大冊にもかかわらず、作品以前と断じてさしつかえのないものが大半である。試作、或いは習作というべきであろうか。それも荒削りな線の太いものがなくて、ちんまり格好をつけて逃げたにとどまっている。姉川武敏の論文「現代抒情詩と私」は、中でも一応こなしているものの一つだが問題を追求していく角度に鋭どさと気合が欠けているし檀浦史朗の「つばさ」もいっかんしたプロットを持つ創作だが、作者の生の感情が一つとして読む者に伝わってこない。スポーツでも楽しんでいるように書き流した感じだ。お粗末な思想も気になる。近藤野火男の俳句はさすがに手馴れたものだが、（読まれる俳句）（感激の対象になる俳句）が全く稀有となった今日だが、若い世代の間で正に不遇としか呼ぶことの出来なくなった俳句のための詩人としていまひとつ、せまってくる作品の息吹きが欲しい。

いま、同好会は、中島斌雄が主宰する俳誌「麦」所属の野火男を軸として、約三十人の会員が動いているに過ぎない地味なサークルだが、たとえ彼等の文学に対する理解に致い難い甘さがあるとしても、会員の姿勢は足がしっかり地についた前向きのものである。

彼等は自分達の幼い感性と問題意識を、外部から指摘される以前に、十分自覚していたし、自己に何を賭けるべきか、というギリギリの課題と対決している者はほとんどいなくとも、会員達は、創生の仕事にたずさわる人々が常にそうであるように、実にいい気概をもっている。内部結実はこれから始まるのだ、と確信して、その為の主体確立をめざした討論会、読書会、座談会にのぞむ態度は、きわめて真剣である。「壇」の発刊後も、前後三回にわたる合評会が行われたが、一番時間を費いやしてエネルギッシュに議論されたのは、近視眼的な細部の分析というより、むしろ主体の飛躍と昇華を期すべく如何なる仕方があるのか、文学を、現実との果し合いに対する旗印として把握する為の初期的過程で、まず確かめなければならないものは何かということであった。思うに、この同好会の行きかたは本筋において誤っていないといえる。

「私達が入学したとき、六本松分校に文学研究のサークルが一つもなかったのには奇異な感じを受けました。音楽部がわずかに活気を呈しているものの、この種のサークルが軒並みに低調さをかこっているのは、現代学生の乾いて萎縮した気質と無関係でないように思えて、文芸同好会発足のニュースに、疎外された個性再建の意欲を見たような喜びを感じました」と一女子学生が語ってくれたが、これは同好会に対する買被りであろうか。

一口に〃乾いた群像〃とかたずけられる学生も、その一人一人の胸中には「一九五九年の日本」が、いやおうなく押しつけてくる無数のジレンマとの生々しい葛藤が、必ず渦巻いているはずである。多くの場合、現実生活はあまりに軽く、心の奥深い部分で育ってきた真に生きるに値する人生の典型は、あまりに重すぎる。この不均衡こそ、個々人の充実と世代の飛躍を致命的にさまたげている要因であるとすれば、恐らく同好会が一になすべき仕事は、このアンバランスの矯正に寄与することであろう。つまり、「壇」が何かを約束しているとすれば、近代文学の旗手を産み出したり、職業文人の母胎となることではなくたまたま文学の芳香を通して人生の深部をのぞき見たいと願う若人達の触れあいの場となることであると彼等は考えているようだ。そして、より高度の専門的文学研究を志ざす人々は、既存の「九大文学」雑誌「るつぼ」に参加し、更に「九大短歌」「九大俳句」といった機関誌を結成してゆけばよい。

結論はこうである。重ねていうが文芸同好会は未だ創生期にあるし「壇」も本格的な文芸論評の対象となるほどのものをほとんど持っていないがきわめて意味深い。教養部に生まれたが故に更に意味深い問題を懐胎している。過去に生まれてまもなく消えていった同じ文芸サークルの軌を踏むことがないように、会員相互は、育てるべきものを真に守ってゆくべきものを見失ってはならない。

夏の悪感踏みゆく砂丘崩えやすし
魚減る湾ひとつの林檎温めつつ
＝少女の顎＝より　野火男（I）

根本的な努力に欠ける

六大学美術展評

雑然とした印象は、あるいはさけられまい。しかし、雑然さを統一する強いもの—それを求めるのはムリだろうか。絵となるものの対象を—それはもちろん観念であっても当然なのだが—透明になるまでみつめることそれは対象を意識の中で再構成しある抽象にまで昇華させることである。こうした初歩的な、しかも根本的な努力が非常に少ないというところに、この美術展の弱々しさがある。作者たちが原則を知らないというのではない、努力に欠けるといいたいわけだ。色彩とパターンによるムード的なロマンのイメージばかりを追っている—それが全体的な印象である。

奨励賞をうけた「橋」（村橋達也・九大）には、ややこの点を抜けようとする意欲がみられる。二本の橋と岩との重量感はかなりゆたかだ。しかし、橋という一つの人工のオブジエは、山と水という自然の中に置かれることによって、作者の意識の上でどう反射するのか。その基本点で模索している感じである。

朝日賞の「赤いレンガと校庭」（西山宏、西南大）は、低調さを救う二、三の作品の一つである。異様なふくらみをもった赤い建物とひょろ長い木々の対比、建物、木、空のモノトーンな暗さに対して前庭の奇妙な明るさ。奥に座りこんだ赤い建築から感じとれる重くるしいレジスタンスと前庭にただよう真昼の哀しみが、ある量感を伴って迫る。

その他「黒い河」（連盟賞、永淵純一・学大）「街」（阿比留紘子・西南大）「建物」（白井基治・西南大）の都会を主題とした三作品のフォルム、クワトリ、ミノル（久大）の二点にみられるコムプレックスなどが印象的。ただし、クワトリの作は、それなりに一つのマンネリズムを生んでいるのではなかろうかという心配がある。＝6月5日—20日・丸善＝（朝）

本學に原子力圖書

米大使館から

米国大使館を通じて、米国の原子力委員会より九大に十三冊の原子力関係図書が贈呈されることになり、二十五日東京の大使館から原子力関係担当者のポール・A・ロスラー氏が九大に山田学長を訪れ図書を贈った。これらの図書は昨秋ジュネーブで開かれた第二回原子力平和利用国際会議にアメリカの代表論文として公開されたものの全文である。

松原風土記（3）

鯨の墓標

箱崎浦

永く博多の町に住んでいる人ならともかく他県から九大に学んでいる人で博多湾に鯨が遊泳していたこと（現在もときたま見られる）を知っている人は数少ないだろう。農学部水産学教室の競輪場寄りに刻み込んだ文字もはげかけた高さ一米ばかりの自然石の石碑が十畳敷ぐらいの芝生の中央に建てられている。表面には「鯨ノ標」裏面には「明治廿一年・箱崎浦」と刻みこまれているが水産学教室の内田教授の話によれば戦時中現在の競輪場電停付近に壕を掘っていたところ見つけたもので、先生の調査で箱崎の古老に語ってもらったところ、明治二十一年まだ水産学教室付近あたりまで波打際がきていた頃鯨の種名は判らないが兎も角相当大きな鯨が波打際に打ちあげられてなんでも季節が夏だったことも手伝って箱崎の浜一帯に猛烈な鯨の腐敗した悪臭が漂って付近の住民を苦しめた。当時では疫病が蔓延すると考えたのも無理ないことで鯨の霊を供養することにより疫病を防ごうとして石碑を、現在の養蚕室裏に建てたものである。九大との因縁を語るには縁が薄いようだが、石碑の付近にその昔巨大な鯨が漂着したこととジェット機の飛ぶ現今の九大とを思うにつけまた新たなる感慨も起ろうというものではなかろうか。

ホップのきいた　本場の味
SAPPORO BEER
ビール党の
サッポロ
＊東京銀座・日本麦酒株式会社

〃アサヒゴールドはあなたのビールです〃

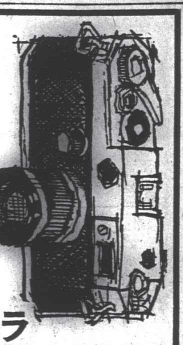
アカシカメラ
六本松電停前TEL⑤0789

電気計測器
修理並改造
株式会社　松尾電気計器工業所
福岡市東雲町55　TEL②—1928

高・中・小教科書販売店
新刊書籍・雑誌・文房具
株式會社　吉岡文誠堂
六本松電停前　TEL⑥4947

ビールコンパにも……配達迅速！
和洋酒　林酒店
別府公団アパート入口　⑤1721

やっと巡り逢った愛情をひたむきに想いつめる女ごころ！
胸うつ、涙を呼ぶ永遠の名作！
真夜中
本年カンヌ映画祭アメリカ映画代表出品作品！
キム・ノヴァク　フレデリク・マーチ
アカデミー賞に輝く　デルバート・マン監督
MIDDLE OF THE NIGHT
コロムビア映画　超大作
7月3日より　S.Y松竹座


急告
写真仕上げのスピード化について
今般暗室を整備致し下記の如くスピード化致しました、倍に倍して御利用下さい。
○フィルムのみ現像の場合
午前10時迄受付→午後2時出来上り
正午迄〃→〃4時〃
正午以後〃→翌朝8時〃
○フィルム現像と同時焼付引伸及焼増の場合
午前10時迄受付→午後4時30分出来上り
午後4時迄〃→翌朝9時〃
午後4時以後〃→翌日午後2時〃
九大電停前　電(65)2419　高千穂カメラ

九州製糖株式会社
取締役社長　板波俊太郎
福岡市東濱町一丁目一番地
電話代表　西②5331番

大之浦炭・大辻炭
貝島炭礦株式会社
取締役社長　貝島太市
本社　福岡市天神町二五番地　電話④一五六一
支店　東京、大阪、若松
出張所　名古屋

松島炭鉱株式会社
本社　福岡市大名町一六四
電話④〇九三六—〇九三九

日本炭礦株式会社
取締役社長　菊地　仁
本社　福岡市下警固九五六の八
電話（代）⑤三二三一番
礦業所　高松・第一、大君、二島、山田
営業所　若松、大阪、名古屋、東京、富山
高松（四国）、広島

世界の水準を抜く……
プリンス自動車
乗用車　グロリア　スカイライン
ヤナセ自動車株式会社
福岡支店　福岡市平尾新川町36の1
電話⑤1135（代）—9

MEW　株式会社明電舎
楽しく夏の生活をおくるために……
すばらしい風のプレゼント
明電扇風機
25センチから40センチまで各種ございます
福岡市渡辺通り2丁目（電気ビル内）
株式会社明電舎福岡営業所
TEL(2)3712、6476、3952